

原子力発電に対する公衆の態度

男性と女性の態度の特徴を中心とする予備的調査

Public Attitudes toward Nuclear Power Generation

— Preliminary Study Focusing on Characteristics of the Attitudes of Men and Women —

丸山 直子 (Naoko Maruyama)* 柳原 良造 (Ryozo Yanagihara)†
三隅 二不二 (Jyuji Misumi)* 林 知己夫 (Chikio Hayashi)‡

要約 原子力発電に対する公衆の態度およびこれに関連する事象について、男女差という観点を中心にアプローチすることを目的とする。具体的には、それぞれの態度を示す人々がどのようなライフスタイルやものの考え方を有するのか、また、原子力発電に対する不安の種類にはどのようなものがあるのか、更には原子力発電に対する態度の強度の性質などを解明することを目指した。その結果、各態度ごとの特徴が明らかとなり、また原子力発電に対する不安には大きく分けてエモーショナルな不安とロジカルな不安が存在することが判明した。態度の強度については、男性はプラス方向にはどちらかというに変化しにくい、マイナスの情報により否定方向へ変化しやすいこと、逆に女性は、プラスの情報の提示により肯定方向へは態度が変わりやすいが、マイナス方向へはあまり変化しない傾向があることが判明した。

キーワード 原子力発電に対する態度、男女差、ライフスタイル、不安、態度の強度、バイアスクエスション

Abstract The purpose of this study is to approach the public attitudes toward nuclear power generation and related matters by focusing on the viewpoint of differences between men and women. More specifically, it was attempted to determine what types of lifestyles and ways of thinking are associated with persons indicating the respective attitudes, what types of anxiety these people have with respect to nuclear power generation, as well as the nature of the inflexibility of those attitudes. As a result, well-defined characteristics were found to be associated with each attitude. In addition, the types of anxiety with respect to nuclear power generation were able to be broadly classified into emotional anxiety and logical anxiety. Regarding the inflexibility of these attitudes, although men tended to exhibit little change concerning positive attitudes, they tended to easily change in the negative direction as a result of negative information. In the case of women, conversely, although their attitudes tended to change easily toward the affirmative direction when presented with positive information, it was determined that women tend to change very little toward the negative direction.

Keywords attitudes toward nuclear power generation, differences between men and women, lifestyle, anxiety, inflexibility of attitudes, bias-question

1. 問題

これからの更なる電力需要増大に対応して、原子力発電の重要性は今後ますます大きくなるものと思われるが、このような状況において、供給側は、原子力発電の安全性を技術的側面から追求すると同時に、これを受け入れる社会からの信頼を得るべく、その理解を深めるよう努める任務が課せられる。

人々の理解や信頼なくして今後原子力発電を発展させることはまず不可能であると言える。

それにはまず、社会の人々が原子力発電に対してどのような態度を持っているのかを正確に理解する必要がある。このため、原子力発電に関して一般の人々を対象とした調査が今までにもいくつか行われてきた。その中で林・守川(1994)¹⁾は、原子力発電に対する態度の構造を明らかにし、その結果と

* (株)原子力安全システム研究所 社会システム研究所
† (株)マーケティング・サービス 代表取締役社長

‡ 文部省 統計数理研究所名誉教授
(株)原子力安全システム研究所 社会システム研究所研究顧問

して、原子力発電に対しては全くの無関心層(13%) 強く好意的な態度を持つもの(11%), 強く非好意的な態度を持つもの(9%), その他、好意的なもの(12%)や、非好意的なもの(5%)があり、残りとして中間的なもの(50%)があつて、それぞれの層にはその性格を示す心理的特色のあることを解明した。更に、橋口ら(1995)²⁾は、原子力発電所に対して持つイメージが、回答者の職業により異なることを示唆している。

ところで、原子力発電に関して、女性は男性に比べて否定的だということが日常的によく言われている。女性は男性よりも放射能などの言葉に敏感であり、感覚的に原子力発電を拒絶するなどという意見もある。そこで本研究は、原子力発電に対する態度およびそれに関連する事象に実際に男女差は存在するのか、そこにはどういった特徴が見られるのかという観点に立ち、以下のような内容について検討することとする。

まず、原子力発電に対して不安を抱く人が多いことは想像に難くなく、不安が原子力発電に対する態度の中核にあると考えられる。しかし、原子力発電に対して不安を持つ理由としては、放射性廃棄物の処理問題や人為ミスの可能性などに関するある程度の知識を持っており、何らかの根拠に基づいた上で不安を感じている人もいれば、あまり知識はなくよくわからないがただ何となく漠然と不安に思う人もいるというように、様々なタイプが存在する可能性があり、そうであるとすれば単に不安の程度のみを測定するだけでは不十分である。本研究では、原子力発電に対する公衆の態度の重要な要素である不安の多様性、すなわち原子力発電に対する不安にはどのようなタイプが存在するのかを明らかにする。

更に、社会心理学の分野において、態度には価値観が影響することがわかっているが、原子力発電に対する態度に関しても、価値観やライフスタイルとの関連があるのかどうかについても探索する。

また、態度については、単に原子力発電に対して肯定的か否定的かという態度の程度の測定だけではなく、それがどのくらい動きやすいあるいは動きにくいのかという態度の強さについても考察し、各層に対するアプローチの仕方の糸口をつかむことも目指す。

2. 調査方法

2.1 質問構成

質問構成にあたり、まず、図1のように質問票全体の枠組みを構築した。核となる態度の測定や不安の測定のための項目は、過去に行われた原子力発電に関する調査を集め、それらを参考に項目を選定かつ改訂した。これに、間接的ではあるが原子力発電に対する態度の根底にあると思われる原子力や放射線・放射能のイメージ、価値観・ライフスタイル・国民性の項目を加え、調査票全体を構成した(付録)。

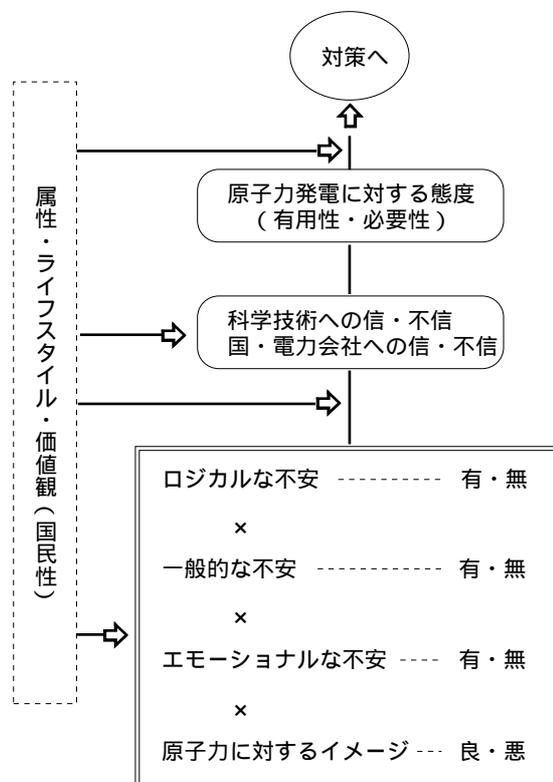


図1 原子力発電に対する態度構造の枠組み

2.2 調査実施

本調査は、原子力発電に対する態度には、個人の属性や価値観などが関与する。原子力発電に対する不安には、エモーショナルな不安やロジカルな不安というようないくつかのパターンが存在する。態度の強さ(変化しやすいかどうか)は個体によ

り異なる といった多少大づかみな仮説をもとに構成したが、これらを検証するために、今回の調査は以下のように比較的小さな規模で予備的に実施した。

調査地域 : 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県の二府四県
 調査対象 : 18歳以上79歳以下の男女
 標本数 : 600
 標本抽出 : 2段無作為抽出(50地点)
 調査方法 : 個別面接調査
 調査期間 : 1995年12月2日~21日¹
 調査機関 : (株)マーケティング・サービス
 回収標本数 : 454 (75.7%)
 [男性215 女性239]

3. 調査結果および考察

3.1 調査結果の概貌

調査結果全体のうち、包括的な部分をここでまとめておく。

3.1.1 原子力発電に対する態度

「原子力発電を積極的に利用すべきか否か」という質問の回答カテゴリへの分布は図2のようになった。

「どちらとも言えない」の32.2%を頂点として、次に「使わざるを得ない」が31.7%で近接して続き、3番目は「使わない方がよい」の18.7%である。すなわち、分布は「どちらとも言えない」との中庸意見を中心に利用可の方へ偏りを持っているわけで、「使わざるを得ない」以上の利用可能の態度を示す者は39.4%、中庸が32.2%、利用否定方向は28.4%となり、原子力発電を受容する態度を示す者のが多い。

但し、原子力発電に対して、肯定側あるいは否定側にどの程度傾いているかという態度の根底には、実際には肯定的要素と否定的要素が入り混ざって

¹ 調査期間中の12月8日に、高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏洩事故が発生したため、本調査に対する影響が懸念されたが、調査終了が「ビデオ隠し」などの報道前であり、各質問項目について事故前と事故後のデータを比較した結果も統計的な差異は生じていなかったため、予定通り調査および分析を実施した。

数=454

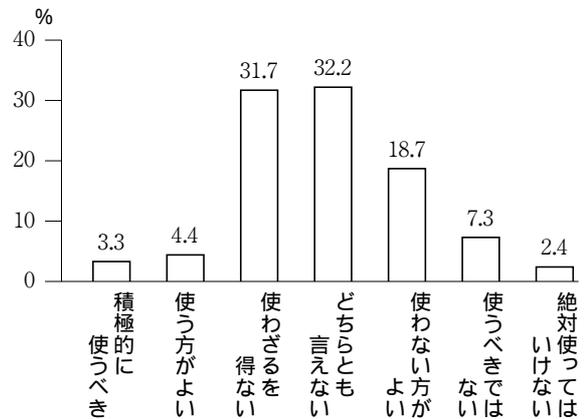


図2 原子力発電利用積極度

ると考える方が現実的である。そこで本調査では、このような点を考慮して、「安全性配慮のもとで原子力発電をするのがよいか、生活のダウンを覚悟しても利用してはならないか」という主旨の、より現実的な態度も測定した。その分布は図3のようになった。

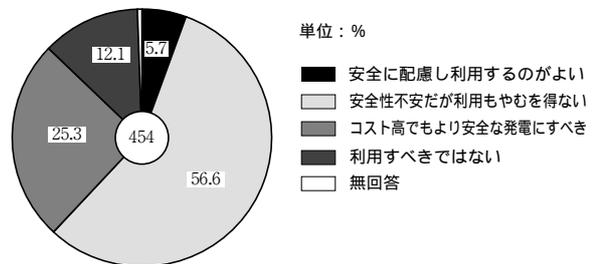


図3 原子力発電の利用賛否

図に見るとおり、半数を超す56.6%は、やむを得ないと許容しており、「安全性に配慮しつつ利用」を加えると62.3%が原子力発電を支持している。先の原子力発電の利用積極度と類似してはいても質問の意味が異なるため単純には言えないが、利用積極度の質問に対して「どちらとも言えない」と答えた中間層は、現実的には利用もやむを得ないという消極的承認の態度を示す人の多いことがわかる(表1)。

	TOTAL	Q27 原子力発電利用賛否					上段：%	下段：人数
		安全に 利用する のがよい	安全 性不安 だが 利用も やむを 得ない	発 電に 安全 な べき	コ ス ト 高 く も	利 用 す べ き で は な い	無 回 答	
TOTAL	100.0 454	5.7 26	56.6 257	25.3 115	12.1 55	0.2 1		
Q18 原子力 発電 利用 積極 度	積極的に使うべき	100.0 15	33.3 5	60.0 9	6.7 1			
	使う方がよい	100.0 20	25.0 5	65.0 13	10.0 2			
	使わざるを得ない	100.0 144	6.3 9	77.1 111	13.2 19	3.5 5		
	どちらとも言えない	100.0 146	2.7 4	58.9 86	30.8 45	6.8 10	0.7 1	
	使わない方がよい	100.0 85	3.5 3	40.0 34	42.4 36	14.1 12		
	使うべきではない	100.0 33		12.1 4	33.3 11	54.5 18		
	絶対使ってはいけない	100.0 11			9.1 1	90.9 10		

表1 原子力発電利用積極度と賛否

3.1.2 原子力発電に対する態度とライフスタイルおよび超常現象・迷信に対する考え方との関連

本調査では、各個人により原子力発電に対する意見見解が異なることの背景事情や考え方の根源を探るため、価値意識ライフスタイルに関わる数多くの設問を行った。更に、回答者のものの考え方の奥底を探る目的で、超自然・おばけに対する関心や迷信に対する考え方も質問した。これらの回答結果は複雑であり、個々に検討しては全体の見通しを得ることが難しい。そこで、多変量解析法によって全体を整理することとした。用いた解析手法は「林の数量化 類」である。投入した変数は表2に示すとおりである。これらの変数質問について、ライフスタイルに関するもので回答カテゴリーが複数のものについては、カテゴリーの意味と分布状況を勘案して、全変数を2カテゴリーとした。また、超自然・おばけに対する関心や迷信を気にするかどうかのスケールは、各事例に対する回答の個数によりそれぞれ3グループに分け、それをカテゴリーとした。

これらに、原子力発電利用積極度質問の7段階カテゴリーの+・両端のカテゴリーをまとめて5段階としたものを加えて解析した(表2)。

この解析結果から、根を採用し、これを用いた平面上に各アイテムカテゴリーをカテゴリースコアによって布置させ、図4を描いた。図中、太字で書かれているのが原子力発電利用積極度の5カテゴリーであるが、このように価値観やライフスタイルの項目の中に入れると、軸に沿って+側は態度が明確なものとなり、-側はやや中間的となる。

また、ライフスタイルや価値観という観点に立つと、原子力発電利用において「どちらとも言えない」という態度は「使わざるを得ない」と「使わない方がよい」の中間に位置するものではなく、「使わざるを得ない」により近い意味合いを持つ、つまり「使わざるを得ない」と「どちらとも言えない」はこの観点において非常に似た性質を持つことが判明した。

数量化 類では、近接するアイテムカテゴリー同士は関連が深いことが示されているので、この図よりアイテムカテゴリー「使う方がよい」から「使うべきでない」それぞれの近辺に位置するものを見れば、それらと関連のあるアイテムカテゴリーを整理することができることになる。

これによりアイテムカテゴリーを整理すると、まず、「使う方がよい」の近辺に位置するのは、「2.生活豊かさ感ナシ」「4.生活豊かさ判断基準は他人の生活と比較」「40.自分のことだけに気を配る」

		因子軸1	因子軸2	因子軸3	因子軸4	因子軸5		
サンプル数 = 454		相関係数	0.29001	0.27647	0.25567	0.24349	0.23775	
連番	要因	カテゴリ	度数	カテゴリースコア				
1	Q1 生活豊かさ感	豊かである	251	-0.62532	-1.08171	0.19062	-0.27273	-0.17222
2		豊かではない	203	0.77318	1.33748	-0.23569	0.33710	0.21295
3	Q1SQ1 判定基準	自分の欲求水準	274	0.31599	-0.86347	-0.31571	-0.73018	-0.48950
4		他人の生活と比較	180	-0.48100	1.31438	0.48059	1.11137	0.74512
5	Q1SQ2 物的・精神的評価	モノの側面	362	-0.18189	0.10892	-0.39145	0.09115	0.26098
6		精神的側面	92	0.71571	-0.42860	0.154027	-0.35893	-1.02690
7	Q2 物的・精神的充実志向性	モノの豊かさ充実	284	-0.15326	0.88821	-1.18792	-0.38114	0.84632
8		精神的豊かさ充実	170	0.25604	-1.48386	1.98453	0.63658	-1.41386
9	Q3 理想の暮らし方	金持ちになる	33	2.35798	1.52526	-2.21893	-5.32840	8.30658
10		金持ちになるNO	421	-0.18483	-0.11956	0.17393	0.41761	-0.65111
11	Q3 理想の暮らし方	名をあげる	9	1.78030	2.98902	-0.82839	-3.13321	1.68377
12		名をあげるNO	445	-0.03600	-0.06046	0.01676	-0.06332	-0.03405
13	Q3 理想の暮らし方	趣味にあった暮らし方をする	195	0.40127	-2.60686	-1.81704	2.36096	-0.43213
14		趣味にあった暮らし方NO	259	-0.30211	1.96268	1.36804	-1.77765	0.32535
15	Q3 理想の暮らし方	クヨクヨしないで暮らす	142	-1.09038	3.62505	0.91666	0.61103	-0.89495
16		クヨクヨしないで暮らすNO	312	0.49626	-1.64987	-0.41719	-0.27817	0.40732
17	Q3 理想の暮らし方	清く正しく暮らす	25	-0.26876	-2.57617	6.46377	-2.87126	1.47710
18		清く正しく暮らすNO	429	0.01566	0.15012	-0.37667	0.16727	-0.08608
19	Q3 理想の暮らし方	社会のために暮らす	15	3.72170	-0.90010	5.89309	-6.64765	-3.50675
20		社会のために暮らすNO	439	-0.12716	0.03075	-0.20136	0.22709	0.11982
21	Q3 理想の暮らし方	理想の暮らし方その他あり	30	-2.45491	-0.16277	1.43209	-5.62789	-1.98793
22		理想の暮らし方その他なし	424	0.17370	0.01151	-0.10132	0.39814	0.14065
23	Q8 しきたりへの反抗	自分が正しいと思えば押し通す	52	6.55330	1.00575	2.34613	-0.26830	-1.01535
24		状況による	402	-0.84769	-0.13010	-0.30348	0.03465	0.13134
25	Q9 押し切り・説得	他人の反対押し切り実行	128	2.77489	-0.16566	0.93751	-0.69140	-0.44630
26		反対あれば実行やめる	326	-1.08953	0.06503	-0.36810	0.27410	0.17524
27	Q10 人生目標確立度	人生目標を持っている	158	2.21050	0.08904	0.28832	-2.38712	-0.36229
28		人生目標を決めかねている	296	-1.17993	-0.04754	-0.15390	1.27413	0.19338
29	Q28 自然と人間の関係	人間の幸福のため自然に従う	149	1.13350	-1.63582	0.64356	1.07399	2.37949
30		人間の幸福のため自然を征服	305	-0.55374	0.79913	-0.31439	-0.52475	-1.16244
31	Q28SQ1 暮らしと自然環境の重視度	自然環境を最重視	174	1.45216	-1.39905	1.49774	1.51904	1.11627
32		自然破壊はやむを得ない	280	-0.90241	0.86940	-0.93073	-0.94406	-0.69368
33	Q30 機械化と心の豊かさ	機械化で人間らしさ減る	103	2.12773	-0.66823	-0.53436	0.23935	1.06756
34		機械化で人間らしさ減らない	351	-0.62437	0.19608	0.15681	-0.07030	-0.31327
35	Q31 人に対する信頼感	信頼できる	101	-0.41349	-2.42129	-1.08270	-2.22660	-2.07105
36		用心した方がよい	353	0.11831	0.69277	0.30978	0.63701	0.59257
37	Q32 自分の幸せ×社会のため	自分の幸せが第一	107	1.69331	1.54990	-3.35182	0.60964	0.68640
38		社会のためになることしたい	347	-0.52214	-0.47793	1.03356	-0.18806	-0.21166
39	Q33 他人の貢献意識	他人の役に立とうとしている	175	-1.08004	-1.66584	0.70157	-1.55205	-1.19603
40		自分のことだけに気を配る	279	0.67745	1.04487	-0.44005	0.97342	0.75020
41	Q34 過去×未来志向	過去よりも将来を考える	312	0.22350	0.01452	-0.70566	-0.53855	-0.19305
42		将来よりも過去を考える	142	-0.49106	-0.03193	1.55048	1.18312	0.42417
43	Q35 自分の生き方×子孫のため	自分の生き方を中心に考える	168	1.14155	0.11244	-2.40864	-0.66790	-1.14293
44		子や孫重視し考える	286	-0.67056	-0.06606	1.41487	0.39225	0.67137
45	Q4 超自然・お化け関心	0～3個	104	0.43162	2.09265	2.35279	1.81688	-1.43364
46		4～9個	193	0.02071	-0.67263	-0.59503	0.50423	-0.12137
47		10個以上	157	-0.31137	-0.55937	-0.82706	-1.82354	1.09887
48	Q5 迷信	0～2個	85	2.19312	1.05660	0.07362	2.20263	-4.16180
49		3～6個	196	0.10007	0.17869	-1.04654	-0.61328	-0.02377
50		7～8個	173	-1.19091	-0.72160	1.14951	-0.38754	2.07174
51	Q18 原子力発電利用積極度	使う方がよい	35	1.15747	0.89172	-1.79828	0.05929	-5.96356
52		使わざるを得ない	144	-0.72297	-0.41577	-0.38736	-0.77210	0.33301
53		どちらとも言えない	146	-1.49530	0.31413	0.69894	0.84629	0.76220
54		使わない方がよい	85	0.66482	-0.91095	-0.64048	-0.37252	-0.33294
55		使うべきではない	44	5.12241	1.37027	1.61564	0.40406	1.76815

表2 原子力発電量積極度とライフスタイル項目の数量化 類結果 (カテゴリースコア)

「43.自分の生き方を中心に考える」「37.自分が幸せに暮らすことが第一」「7.モノの豊かさ充実させたい」「9.金持ちになる」「32.自然破壊やむを得ない」「30.人間の幸福のため自然を征服」「36.人には用心した方がよい」更に「45.超自然・おばけ関心ナシ」「48.迷信気にならない」などをあげることができる。これらの項目を通じては、自己を基準にしたものの見方をする合理主義者といった人間像が浮かび上がる。

「使わざるを得ない」という許容層と「どちらとも言えない」という中間層は近くに位置しており、これらの態度を持つ人はライフスタイルや超常現象に対する考え方が似ていると考えることができる。そこでこの両カテゴリーに近い項目を挙げると、「28.人生目標決めかねている」「26.反対あれば実行やめる」「24.しきたりへの反抗は状況による」「38.社会のためになることしたい」「44.自分のことよりも子孫重視」「42.将来よりも過去を考える」「34.機械化で人間らしさ減らない」更には「47.超自然・おばけ関心あり」「50.迷信気になる」などが布置している。アイデンティティーが未確立ながら、穏健さが感じられ、また空想上の存在や迷信などに関心を示す非合理性がうかがえる項目群となっている。

「使わない方がよい」では、「3.生活豊かさ判断基準は自分の欲求水準」「6.精神的豊かさの側面」「8.精神的豊かさ充実させたい」「16.クヨクヨしないで暮らすNO」「33.機械化で人間らしさ減る」「29.人間の幸福のために自然に従う」「31.自然環境を最重視」などが挙げられる。統括的に見ると、物質的なものに無関心な精神面重視主義かつ自然順応型の人間像が見出される。

「使うべきでない」との拒否層は近いものがあまりないが、強いて挙げるとすると、「23.自分が正しいと思えば押し通す」「25.他人の反対押し切り実行」「27.人生目標を持っている」「19.社会のために暮らす」である。これを通してみると、意思は強いがやや強引なところのある権力志向の人間像が浮かぶ。

上記結果を通してまとめると、原子力発電利用積極派と対極の拒否派は、人間像としては似たところがあり、どちらもしっかりした硬派イメージの人間であるが、異なるのは、積極派は自己を基準とする合理主義に対し、拒否派は社会性の観点を持った権力志向型人間ということであろう。中間の許容派は

穏健型で神秘志向、「使わない方がよい」という回避派は精神面重視主義で自然志向的である。

3.2 原子力発電に対する態度に関連する事象（全体・男女別）

原子力発電に対する態度には様々な事象が関連していると考えられるが、ここではそのうちのいくつかを取り上げ、それらがどういった性質のものであるのか、また、そこにおいて男性と女性との間にどのような差異が存在するのかを考察する。

3.2.1 原子力発電に対する態度の男女差

表3により原子力発電に対する態度の性差を見ると、男性は「使わざるを得ない」以上の利用積極側で女性の比率を大幅に上回り、女性は39.8%が「どちらとも言えない」に分布して可否の態度が男性に比し不鮮明である。つまり、男性は半数近くが利用積極側に傾いているのに対して、女性は約4割が中間層に属している。このことから女性は原子力発電に対する態度を決めかねており、その結果男性と比較して相対的には利用積極度が低くなっているが、否定的意見が男性に比べて圧倒的に多いというわけではない。

男女とも年齢別で見ると、まず男性の年齢別での回答分布は全体として類似しており、「使わざるを得ない」との現実的立場からの許容が40歳以上各層で37～45%と他層より高いことが見られる程度のわずかな差異である。

女性の年齢別では、どの層でも「どちらとも言えない」に40%前後が集中しているが、その両側すなわち可否の方向では多少の差異があり、「使う方がよい」「使わざるを得ない」では50歳以上、特に60代の比率が他層を上回って相対的に高く、逆に「使わない方がよい」「使うべきではない」との否定方向では40代以下が高めとなる傾向がある。

性年齢両方の結果をあわせみると、原子力発電利用に対する許容の態度は、男女とも50歳以上の高齢層の方が高く、否定的態度はより若い層で、特に「使うべきではない」との拒否の態度は男女とも18～29歳の若い層で絶対比率は別として、相対的に高い。

	TOTAL	Q18 原子力発電利用積極度								平均
		積極的に 使うべき ×7	使う方がよい	使わざるを得ない	どちらとも 言えない	使わない方がよい	使わべきでない	絶対使 けない ×1	平	
TOTAL	100.0 454	3.3 15	4.4 20	31.7 144	32.2 146	18.7 85	7.3 33	2.4 11	4.10	
性 × 年 齢	*男性計	100.0 213	6.1 13	5.2 11	<u>37.1</u> 79	23.5 50	17.8 38	7.5 16	2.8 6	4.24
	18~29歳	100.0 39	5.1 2	5.1 2	33.3 13	23.1 9	15.4 6	<u>15.4</u> 6	2.6 1	4.05
	30~39歳	100.0 45	<u>8.9</u> 4	<u>8.9</u> 4	31.1 14	17.8 8	<u>26.7</u> 12	4.4 2	2.2 1	4.33
	40~49歳	100.0 40	5.0 2	<u>7.5</u> 3	<u>37.5</u> 15	20.0 8	20.0 8	5.0 2	<u>5.0</u> 2	4.23
	50~59歳	100.0 42	<u>7.1</u> 3	4.8 2	<u>38.1</u> 16	26.2 11	11.9 5	7.1 3	<u>4.8</u> 2	4.29
	60~79歳	100.0 47	4.3 2		<u>44.7</u> 21	29.8 14	14.9 7	6.4 3		4.30
	*女性計	100.0 241	0.8 2	3.7 9	27.0 65	<u>39.8</u> 96	19.5 47	7.1 17	2.1 5	3.97
	18~29歳	100.0 54	1.9 1		20.4 11	<u>40.7</u> 22	20.4 11	<u>14.8</u> 8	1.9 1	3.70
	30~39歳	100.0 47		2.1 1	31.9 15	<u>40.4</u> 19	17.0 8	6.4 3	2.1 1	4.00
	40~49歳	100.0 54	1.9 1	1.9 1	27.8 15	31.5 17	<u>31.5</u> 17	1.9 1	3.7 2	3.91
	50~59歳	100.0 46		<u>8.7</u> 4	21.7 10	<u>47.8</u> 22	19.6 9	2.2 1		4.15
	60~79歳	100.0 40		<u>7.5</u> 3	<u>35.0</u> 14	<u>40.0</u> 16	5.0 2	<u>10.0</u> 4	2.5 1	4.18

表3 原子力発電利用積極度の性・年齢差異

3.2.2 原子力発電関連用語のイメージ

原子力発電について語るにあたっては、いくつもの専門用語を使わざるを得ないが、使われる用語の持つイメージのため、内容が送り手の意図どおりには伝わらなかったり、歪んで理解されたり、短絡に拒絶反応が引き起こされることもあり得る。これらの用語に対して人々がどのようなイメージを持っているかを理解することが、正しいコミュニケーションの第一歩であると言える。

本調査では、この観点に立って「原子力と原子力発電」「放射能と放射線」についてイメージ測定を行った。その結果について以下に述べる。

原子力と原子力発電のイメージの差異

「原子力発電」は、一定の発電方式を指し、用語概念がある枠内に納まって具体的であるが、「原子

力」と言った場合は、その意味範囲は広く茫漠としており、原子力発電のみならず原子爆弾をも包括するもので、より上位の概念である。一般的に「原子力発電」といった場合、その原子力の部分が大きく響き、理解に混乱が生じているであろうと想像される。この実態を明らかにする目的で、本調査では、質問を並べることやその順序によるバイアスを避けるため、回答者を二つに分け、それらの群に「原子力」または「原子力発電」という語からの連想イメージをオープンアンサーで回答させた。

これらの回答を言語群に分けて一覧にまとめたものが表4である。これに見るとおり、出現言語は概ね同じであるが、回答数は大きく異なる。この結果でまず注目しなければならないのは、「原子力」からの連想を求めた場合にも、その大多数の回答は原子力発電を連想し、それに関わる連想語を答えている点で、ここに「原子力」と「原子力発電」の重合、

(数字：全体数 (男性, 女性))

		原子力		原子力発電	
核エネルギー	放射性物質	16 (9, 7)		<	30 (12, 18)
	強大エネルギー	16 (11, 5)	32 (20, 12)	>	7 (4, 3)
	先進技術	6 (5, 1)	6 (5, 1)	>	3 (1, 2)
原発利用	エネルギー源	7 (6, 1)		>	5 (3, 2)
	平和利用	2 (1, 1)		>	-
	発電	77 (38, 39)		>	21 (10, 11)
	便利	2 (1, 1)		=	2 (1, 1)
	積極利用	6 (3, 3)		<	10 (6, 4)
	生活支持	-	94 (49, 45)	<	2 (1, 1)
	危険・不安	51 (25, 26)	51 (25, 26)	<	72 (22, 50)
	人工的	-	-	<	1 (1, 0)
戦争被害	戦争	4 (0, 4)		>	1 (1, 0)
	軍事装備	5 (2, 3)		>	-
	原爆	32 (16, 16)		>	20 (10, 10)
	原爆被災	10 (5, 5)	51 (23, 28)	>	4 (3, 1)
事故・放射能モレ	事故	34 (14, 20)		<	48 (19, 29)
	放射能漏れ	10 (6, 4)		<	21 (8, 13)
	安全不信	3 (3, 0)	47 (23, 24)	<	5 (3, 2)
放射能被害	環境被害	6 (4, 2)		<	9 (5, 4)
	被曝被害	6 (1, 5)	12 (5, 7)	<	14 (2, 12)
忌避反対態度	忌避	5 (4, 1)		<	8 (4, 4)
	反対運動	2 (1, 1)		>	1 (1, 0)
	公開	1 (1, 0)	8 (6, 2)	<	2 (2, 0)
	ジレンマ	11 (4, 7)	11 (4, 7)	<	13 (8, 5)

「放射性物質」：放射能、放射線、核、プルトニウム、ウラン、原子炉など

「強大エネルギー」：エネルギー、大きな力、すごい力

「先進技術」：科学技術の発達、鉄腕アトム、未来

「エネルギー源」：エネルギー（プラス面）資源、燃料

「平和利用」：平和利用

「発電」：発電、発電所、電気、電力、水力発電、敦賀、東海

「便利」：便利

「積極利用」：必要不可欠、役立つ、活用すべき、どんどん伸ばすべきもの

「生活支持」：快適な生活、経済発展

「危険・不安」：危険、不安

「人工的」：人工的

「戦争」：戦争

「軍事装備」：潜水艦、原子衛星

「原爆」：原爆、核実験、核兵器、きのご雲

「原爆被災」：広島、長崎、被爆、被爆者

「事故」：事故、チェルノブイリ、むつ船、もんじゅ

「放射能漏れ」：放射能もれ、放射能汚染

「安全不信」：地震時の不安、廃棄物・処理

「環境被害」：環境汚染・破壊、公害

「被曝被害」：白血病等、死

「忌避」：近くにあつてほしくない、海辺にある、これ以上増やさない、必要ない

「反対運動」：反対運動

「公開」：管理技術等の明確な資料を提示すべき

「ジレンマ」：必要性と危険性

表4 「原子力」「原子力発電」の言語群別回答数

あるいは固いつながりのあることが理解される。

「原子力」と「原子力発電」の同じ言語群における回答数を比較して表中に不等号を付したが、「原子力」の場合より「原子力発電」の方で多いのは、「積極利用」「生活支持」というプラス面であるが、それ以上の大きな回答数差で「放射性物質」「危険・不安」「事故」「放射能漏れ」「被曝被害」など、マイナスの陰に当たる局面での回答がより多い。すなわち、「原子力」といったときより「原子力発電」といったときの方が、「戦争被害」は減るものの、その他の事故絡みのマイナス反応が強くなるという結果となっている。

これを男女別に分けて比較すると、「原子力」による連想には男女差が際立って大きく見られるところは少ないが、「原子力発電」の場合において、女性には「危険・不安」に関するものや「事故」・「被曝被害」関連の言葉を連想する人が男性に比べて非常に多いという特徴が見られ、これらが女性の原子力発電に対するイメージを反映しており、態度の根幹部分を示しているとも考えられよう。

放射能と放射線のイメージの差異

次に、「放射能」と「放射線」をコンセプトとする15の形容詞対によるイメージ測定の結果を見る。

ネガティブ側の形容詞への回答比率の全体結果を図5・1に示す。

どの形容詞対においても、「放射能」よりも「放射能」の方が比率が高い。イメージプロフィールはどちらもほぼ同形であるが、「放射能」については大方の形容詞対でマイナスイメージを持たれていることがわかる。その中でマイナスの比率が小さいのは、「放射能」「放射線」共に「一般的な」「役に立

たない」である。

比率の高低にこだわらず、この二つの言語間で差の大きい形容詞は「戦争の」「悪い」「死ぬ」「非人間的な」「不安な」「役に立たない」などで、この順番で放射能イメージの方が放射線イメージをネガティブ方向に上回っている。

更に男女別でこれらのイメージにどのような差異が見られるかを示したのが図5・2である。

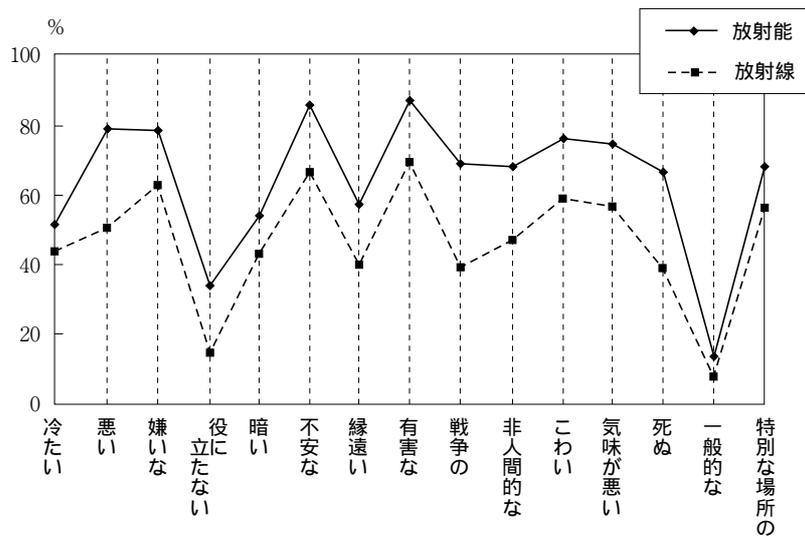


図5・1 放射能・放射線イメージ

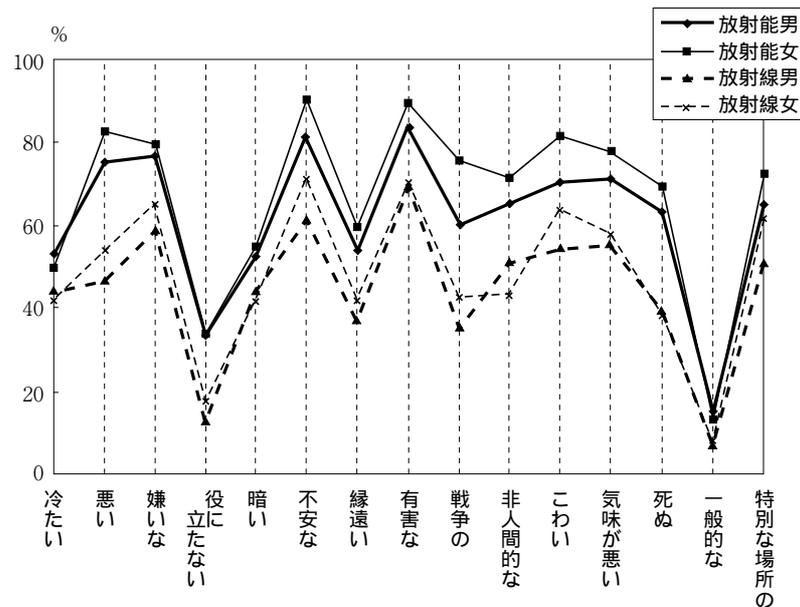


図5・2 放射能・放射線イメージ(男女別)

男女とも全体として常に放射能イメージの方が放射線イメージに比べるとマイナスのイメージを持たれる比率が高く、一項目たりとも放射線イメージの方が逆転するところはない。その放射線イメージの男女差を見ると、「冷たい」「暗い」「有害な」「非人間的な」「死ぬ」の5項目では女性の比率が男性を若干下回るが、他項目では女性の方のイメージがより悪い。しかしその差は大きくてもせいぜい10%前後であり、それほど大きな差とは言えない。放射能イメージも全体として女性のイメージの方が男性よりも悪く、男性の方が比率が高いのは「冷たい」「一般的な」のみである。これらの男女差も大体は10%以内であるが、「戦争の」「こわい」では12%～15%と、やや大きな差がある。

「放射能」と「放射線」のイメージ差が大きめなのは、男性では「悪い」「戦争の」「死ぬ」「役に立たない」「不安な」「嫌いな」などで、いずれも放射線イメージの方がよい。女性も大方は男性と同じであるが、「非人間的な」「こわい」とやや感情の絡む項目が付け加わっている。

3.2.3 原子力発電に対する不安

ここでは、原子力発電に対する不安の多様性を説明する。

原子力発電に対する不安の分類

原子力発電に対する不安を測定するために用いられた刺激文は以下の17項目である。

- a. はっきりした理由があるわけではないが、何となくこわい。
- b. 自分たちがよく理解できず、得体が知れない感じのする原子力を使うことがこわい。
- c. 人体に影響する放射性物質を人間が扱うことがこわい。
- d. 世界では、チェルノブイリ事故のような大きい事故が過去に起こったことがあるので、やっぱり不安に思う。
- e. 原子力発電の詳細について説明を聞いたことがないし、理解しにくいこともあって不安を持たざるを得ない。
- f. 地震国日本では、いくら頑丈に作られていても

原子炉が大地震で壊されて大事故になるかもしれない不安がある。

- g. 原子力発電が最新科学の結晶だとしても、しょせん人の作ったものであり、故障も起こりうるわけで、絶対安全とは信じにくい。
- h. 放射性廃棄物の処理技術が未完成で、それが貯まって、いずれ放射能漏れなど起こしそうで不安だ。
- i. 運転員がどれほど優秀でも、人間である以上間違っ事故を起こすこともありそうで不安だ。
- j. 万が一原子力発電所から放射能が漏れた場合、その被害が長年にわたって子孫の代まで続くことがこわい。
- k. 原子力発電の技術が軍事技術に転用される危険があり、心配せざるを得ない。
- l. 国や電力会社は原子力発電について、正直にすべてを明らかにしておらず、何か重大なことを隠しているのではないかと不安になる。
- m. 国や電力会社は、原子力発電のいいことばかりを言っていて、ウラに何かありそうで、もう一つ安心できない。
- n. 原子力発電所からは、いつも微量ながら放射線が出ているようで、それに不安を感じる。
- o. 原子力発電所では、こまかい故障などはよくあるようで、いずれ大事故を起こしかねないと心配だ。
- p. 原子力は、人間にはしょせん完璧に扱いきれるものではないと思うので、それを使うことに無理がありそうで不安だ。
- q. 原子力発電所があるというだけで不安を感じる。

これらの刺激文ごとに、「1.はっきりそう感じる」「2.そんな気もする」「3.全然感じない」の3段階により回答を得、刺激文を変数として、主成分分析法により解析を行った。結果は表5のとおりである。因子3以上で、固有値が1を上回っており、この3因子が使用に耐えるものである。但し、累積寄与率は、因子3で0.57であり、説明力としては期待を下回った。しかし、相応の意義が内容的に認められるので、以下に、まず3因子の意味を解釈する。第1因子は、全項目がプラスの片側因子であり、

	因子.1	因子.2	因子.3	因子.4	因子.5
固有値	7.38718	1.26172	1.09892	0.86480	0.74377
寄与率	0.43454	0.07422	0.06464	0.05087	0.04375
累積寄与率	0.43454	0.50876	0.57340	0.62427	0.66802
因子負荷量					
Q22不安意見 a. 何となくこわい	0.57411	0.40966	0.43140	- 0.07093	0.27453
Q22不安意見 b. 得体が知れぬ	0.61658	0.45163	0.43138	0.06045	0.07091
Q22不安意見 c. 人が扱う不安	0.58212	- 0.28675	0.28031	- 0.19379	0.34675
Q22不安意見 d. 大事故例	0.59946	- 0.22555	0.29668	- 0.21325	- 0.37343
Q22不安意見 e. 理解しづらい	0.60355	0.34664	0.18338	0.39366	- 0.13421
Q22不安意見 f. 大地震事故	0.66135	- 0.06181	0.07359	0.14173	- 0.52808
Q22不安意見 g. 絶対安全ない	0.67287	- 0.33569	0.11210	0.23743	0.01454
Q22不安意見 h. 処理技術未完	0.71177	- 0.32785	- 0.02568	0.02252	0.14858
Q22不安意見 i. 人間による事故	0.71083	- 0.32140	- 0.01057	0.17777	0.14905
Q22不安意見 j. 被害長期	0.64811	- 0.36068	0.10443	0.16489	0.03504
Q22不安意見 k. 軍事転用	0.69386	0.15031	- 0.21346	0.08128	- 0.09880
Q22不安意見 l. 重大事隠し	0.68537	0.12939	- 0.43364	0.24984	0.17290
Q22不安意見 m. 裏がありそう	0.66351	0.20509	- 0.38492	0.17722	0.06840
Q22不安意見 n. 常時放射線	0.65393	0.23831	- 0.23666	- 0.30163	0.00569
Q22不安意見 o. 故障よくある	0.71229	- 0.05610	- 0.19607	- 0.34609	- 0.00084
Q22不安意見 p. 人には無理	0.73113	- 0.03931	- 0.12835	- 0.24300	- 0.00962
Q22不安意見 q. 原発ある不安	0.65718	0.19082	- 0.06448	- 0.33483	- 0.12887

表5 不安項目の固有値および因子負荷量

各項目の因子負荷量も最大と最小間で0.16の差しか表れていない。通常、主成分分析や因子分析では、第1因子としてサイズファクターが抽出されるが、この第1因子はそれに相当すると考えられる。

では、何を軸とするサイズファクターかを考えると、因子負荷量の差は小さいものの、その順位に注目すると、上位には「人には無理」「故障よくある」「処理技術未完」「人間による事故」など、比較的理知的項目が並び、反対の下位には「何となくこわい」「人が扱う不安」「大事故例」「理解しづらい」「得体が知れぬ」などの感性型反応がきている。この因子については、以上の結果から一応知性因子とすることができよう。

第2因子のプラス側は、「得体が知れぬ」「何となくこわい」「理解しづらい」が上位で、逆にマイナス側は「被害長期」「絶対安全ない」「処理技術未完」「人間による事故」と、それなりに不安の根拠を示す項目が並んでいる。これは、本調査の仮説として考えたエモーショナルな不安がプラスに、ロジカルな反応がマイナス側にあらわれたものと考えられる。従って、この因子はエモーショナル・ロジカル

ファクターとすることができよう。

第3因子のプラス側は、第2因子のプラス項目と概ね一致し、マイナス側に「重大事隠し」「裏がありそう」の2項目が高くあらわれている。これは第2因子で原点周辺にあった項目を取り出したもので、底に人為的なものに対する不信感を持つ項目である。従って、この因子は人為ファクターと呼べよう。

以上に示されたファクターのうち、第1因子は因子負荷量に大差がないので、これを省略し、第2因子・第3因子で平面を構成し、各項目をプロットした(図6)。

この布置構造図によって各項目のグルーピングを行った。

まず、第2因子に沿って大きくはエモーショナルな不安とロジカルな不安に分けることができる。

エモーショナルな不安の中で、第1象限を占める項目は、「1.何となくこわい」「2.得体が知れぬ」「5.理解しづらい」の3項目で、いずれもエモーショナルなイメージ的反應項目である。従って、これを「イメージ的不安」群とする。

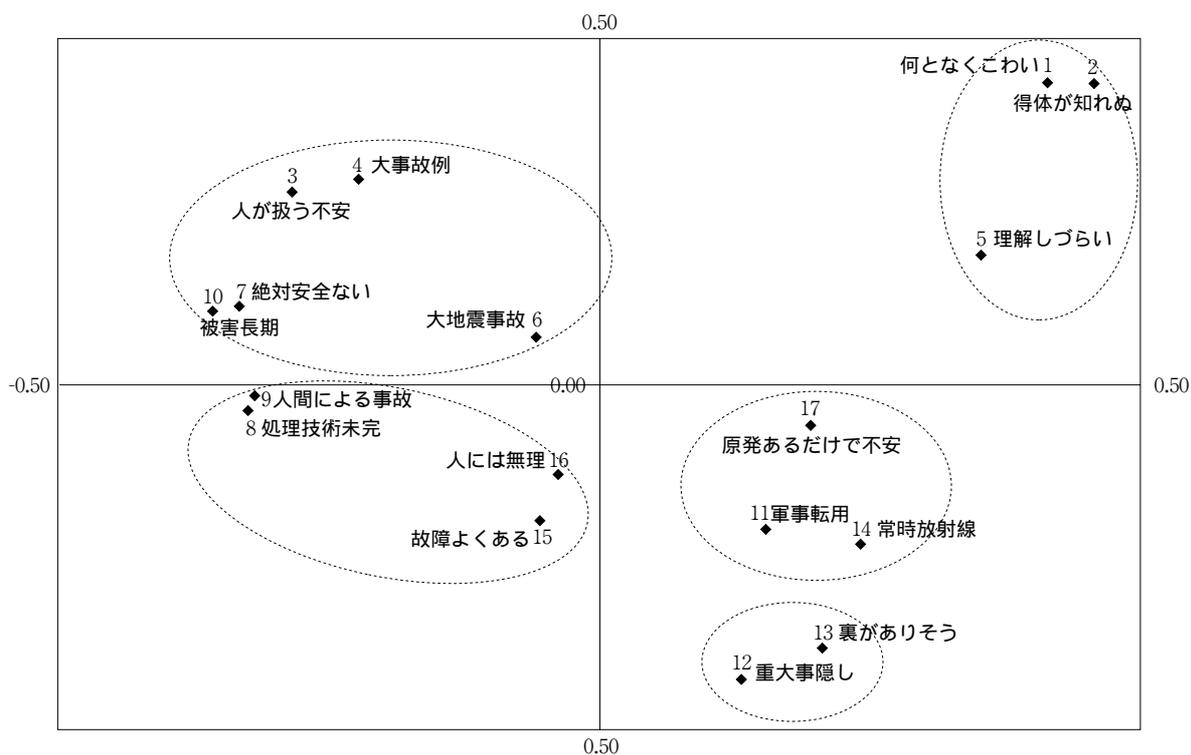


図6 不安項目の布置構造

第 象限への布置項目のうち、「12.重大事隠し」「13.裏がありそう」は、第3因子を成立させた項目であるので、ここに取り出し、その内容から「不信感による不安」群とする。

残りの「11.軍事転用」「14.常時放射線」「17.原発ある不安」は、一見合理的と見えるが、布置位置から見てもイメージで事大解釈している感情論と見られ、実は漠然たる不安の一つと見られる。従ってここでは「原発あるだけで不安」に代表させ、「存在不安」とする。

一方、ロジカルな不安の方は、まず第 象限に、「3.人が扱う不安」「4.大事故例」「6.大地震事故」「7.絶対安全ない」「10.被害長期」の5項目が布置する。これらは絶対的な安全性を否定する態度に裏打ちされていると解釈できる。従って、この群を「完璧否定不安」と名付ける。

第 象限では、「8.処理技術未熟」「9.人間による事故」「15.故障よくある」「16.人には無理」が布

置する。これらはロジカルな反応の中で、人間が扱う技術の限界を考えた不安と見られる。従ってこれを「能力限界不安」とする。

以上のとおり、本調査の目的の一つとした「不安」の分類作業の結果は、

- 「イメージ的不安（エモーショナルな不安1）
- 「存在不安（エモーショナルな不安2）
- 「不信感による不安（エモーショナルな不安3）
- 「完璧否定不安（ロジカルな不安1）
- 「能力限界不安（ロジカルな不安2）

の5つに分類された。

ところで、不安というのは感覚的なものであるだけに、男女によってその構造が異なる可能性がある。その点を確認するために、男女別に同様の主成分分析を行ったところ、全体および男女別の不安の分類は次のようになった。

	全 体	男 性	女 性
イメージ的不安	1. 何となくこわい 2. 得体が知れぬ 5. 理解しづらい	1. 何となくこわい 2. 得体が知れぬ 5. 理解しづらい	1. 何となくこわい 2. 得体が知れぬ 5. 理解しづらい 17. 原発ある不安
不信感による不安	12. 重大事隠し 13. 裏がありそう	12. 重大事隠し 13. 裏がありそう	12. 重大事隠し 13. 裏がありそう
存在不安	11. 軍事転用 14. 常時放射線 17. 原発ある不安	11. 軍事転用 14. 常時放射線 17. 原発ある不安	11. 軍事転用 14. 常時放射線
完璧否定不安	3. 人が扱う不安 4. 大事故例 6. 大地震事故 7. 絶対安全ない 10. 被害長期	3. 人が扱う不安 4. 大事故例 6. 大地震事故 7. 絶対安全ない 10. 被害長期	3. 人が扱う不安 4. 大事故例 6. 大地震事故 7. 絶対安全ない 10. 被害長期
能力限界不安	9. 人間による事故 8. 処理技術未熟 15. 故障よくある 16. 人には無理	9. 人間による事故 8. 処理技術未熟 15. 故障よくある 16. 人には無理	9. 人間による事故 8. 処理技術未熟 15. 故障よくある 16. 人には無理

「イメージ的不安」については、全体と男性は一致するが、女性では「17. 原発があるだけで不安」が加わり、エモーショナル項目がここにそろってくる。

「完璧否定不安」「能力限界不安」については、女性が全体と一致するが、男性の場合「15. 故障よくある」「16. 人には無理」が独立して一群を成し、また細かく分けると「7. 絶対安全ない」「10. 被害長期」「9. 人間による事故」がまとめられ、絶対的安全の否定のトーンがより明確となってきて、残りの項目が事故発生不安として一元的にまとまっている。

「不信感による不安」「存在不安」については、女性で「17. 原発があるだけで不安」が抜けるが、男女とも、この2不安が合併した形で一致している。

全体としてみると、ロジカルな項目については男性がより鮮明な形のまとめを、エモーショナルな項目については女性の方がよりすっきりとまとまる

傾向が認められる。男性の場合細かく分けると6分類に対し、女性では4分類と見られ、男女間で項目のグルーピングのされ方に若干のズレが生ずる。しかし、男性の場合に人間能力限界についての考え方が細分されるものの、男女とも概ね類似していると言える。

各不安タイプの構成

原子力発電に対する不安が上記のとおり分類され、回答者それぞれがどのタイプの不安を抱いているかを明確にすることができることとなった。そこで、まとめた各項目をテストとして用い、個々の回答者の得点を算出し、この得点が平均以上か否かに着目して、回答者の不安タイプ分けを試みたが、不安を持つ者は1人で何種もの不安を持つという重複型が多く、結果があまりにも複雑多様となった。つまり、ある不安タイプだけを単独で強く感じる人

は少ないことが判明した。そこで、各不安タイプごとに満点層・平均点以上層・平均点以下層の3カテゴリーにとりまとめ、各々についての3層の比率を図7のように表した。

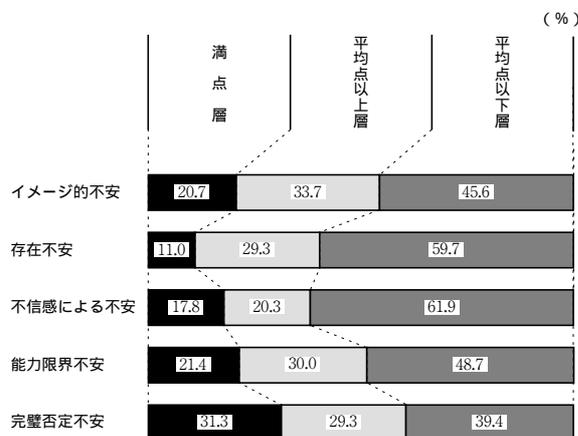


図7 各不安の得点層の構成比

「完璧否定不安」では、全体の31.3%が「満点」層で、この不安を強く持つ者が多いことがわかる。逆に少ないのは、「存在不安」「不信感による不安」で、ここでの「満点」層は10%台であり、「イメージ的不安」「能力限界不安」ではこれが20%強である。

こうしたテストで満点は、通常数多くは表れないものであるが、この不安テストでは、最低でも「存在不安」の11%、最高は「完璧否定不安」で31%が満点である。現実にかような強い不安がかなりの人に持たれていることがわかる。

これについて更に各得点層ごとに男女比を見ると、まず存在不安の「満点」層では女性が全体構成比53.1%に対し58.0%、同じく「平均点以上」層が60.9%と多い。すなわち、相対的には平均点以上2層は女性がより多い。また、能力限界不安の「満点」層でも女性が60.8%で全体構成の53.1%を上回り、その分「平均点以下」層で女性が少ない結果が見られる。更に、完璧否定不安の「満点」層においても女性が57.0%と多いのに対し、男性は全体構成比率を4%下回って43%と少ない。つまり、男性に比べれば女性の方が存在不安、能力限界不安、完璧否定

不安をよりはっきり感じるという傾向が見られる。

これに年齢を加えてみると、あまり大差ではないが、全体としては不安のタイプにかかわらず男女とも高齢者になるほど比率が若干高くなるという傾向が見られる。

3.2.4 原子力発電に対する態度の強度

与えられる情報によって、人は原子力発電に対する意見や態度をどのように、またどの程度変え得るのか。この難題に対する1つの取り組みとして、本調査ではバイアスクエスチョンを構成し、その反応を見た。一種の実験的調査であるが、その具体的手続きは、回答者をランダムに二分し、一方の群に対しては原子力発電のプラス面のみの情報を呈示、もう一方の群に対してはマイナス面のみの情報を呈示し、その後事前に質問されていた原子力発電利用積極度質問を再度繰り返して、事前反応とプラスあるいはマイナス情報取得後の回答変化を見た。その結果を以下にまとめる。

原子力発電のプラスバイアスによる意見・態度の変容

基準となる態度測定のため、事前にまず次の原子力発電利用積極度質問により回答を得た。

今後の日本の電力需要をまかなうためには原子力発電を積極的に使うべきだと思いますか。それとも使うべきではないと思いますか。次の項目のどれがあなたのお気持ちに最も近いかお答え下さい。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1.積極的に使うべきだ | 5.使わない方がよい |
| 2.使う方がよい | 6.使うべきではない |
| 3.使わざるを得ない | 7.絶対使ってはいけない |
| 4.どちらとも言えない | |

この後、プラスのバイアスをかけるために、二分した一方の回答者群に呈示された原子力発電のプラス情報は以下のとおりである。

a. 原子力発電は現在の日本で最も主要な電源であり、そのおかげで、我々は今の便利な生活が送

- れている。
- b. 原子力発電の技術も確立したので、このままエネルギー消費が続くと、現実的に考えれば、将来エネルギー源としてますます重要になる。
 - c. 原子力発電は、発電コストが他に比べて安く、価格変動も少ないので、安定して安く電気を利用できる。
 - d. 原子力発電により火力発電を減らすことができるので、大気汚染を少なくし、地球環境保護に貢献できる。
 - e. 原子力発電所所在地域には、道路・学校・病院など公共施設の建設、また産業振興のための様々な交付金が交付され、さらに電力会社や関連会社へ就職する機会が増えて、地域振興に役立つことができる。
 - f. 今後発展途上国を中心にして世界的なエネルギー需要が増大した場合も、安定して電力供給するため我が国には原子力発電は欠かせない。
 - g. 日本の原子力発電所では、安全管理が充分に行き届いているので安心できる。

これらの各項ごとに、「1.よく納得できる」「2.納得できる」「3.まあ納得できる」「4.どちらでもない」「5.やや納得できない」「6.納得できない」「7.全然納得しかねる」の7段階評定で回答をとった。この手続きは、原子力発電の利点の数々に回答するためとの建前で、情報をしっかりと植え付け、実験条件であるプラスバイアスを強化確定する働きを持たせたものである。

これに続けて、次のバイアスのある質問文によって原子力発電の利用についての積極度を質問した。

原子力発電には前問で申し上げたような利点があるとされています。これらの点を考慮に加えてお考えいただいた場合、今後の日本の電力需要をまかなうためには原子力発電を積極的に使うべきだと思われませんか。それとも使うべきではないと思われませんか。

次の項目のどれがあなたのお気持ちに最も近いかお答え下さい。

1.積極的に使うべきだ 5.使わない方がよい

- 2.使う方がよい
- 6.使うべきではない
- 3.使わざるを得ない
- 7.絶対使ってはいけない
- 4.どちらとも言えない

この結果を、7段階カテゴリーの+ - 両端をまとめて5段階とし、事前の同様質問での結果と合わせて描くと図8に示すとおりとなった。

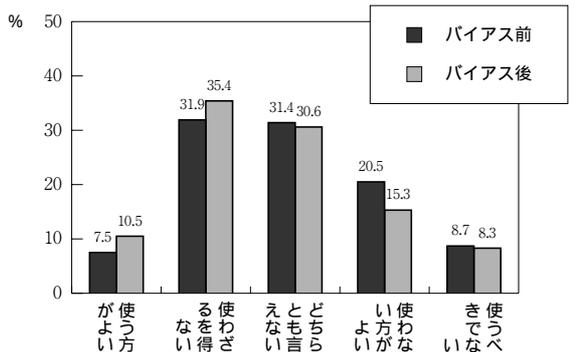


図8 プラスバイアスによる態度変容(全体)

全体としては、あまり大きな変化は起きていないが、変化方向はプラス側である。すなわち、「使う方がよい」がバイアス前の7.5%から10.5%と若干増加し、「使わざるを得ない」との容認型も35.4%で、バイアス前を3.5ポイントと小さい率ながら上回っている。そして、否定側の各項の回答率が軒並み低下する。結果として、積極側項目合計39.4%であったものが45.9%へ、そして、否定側項目合計は29.2%が23.6%へと6%が移行している。

以下に男女別に比率を比較し、それぞれでどのような比率変化が生じたかを見る(表6)。なお表中の下段の%は、(バイアスクエスチョン後の原発利用積極度) - (バイアス前の原発利用積極度)、つまりバイアス負荷による変動差を示したものである。この変動は、バイアスによるものと、回答者の意見が一貫性を欠くための揺れとを含むが、ここではバイアスによるものとして進める。

まず男女別の比率変動を見ると、男性の積極側では「使う方がよい」が5.1ポイント増加し13.5%となるが、「使わざるを得ない」は2.5ポイント減少している。よって、積極側のトータルは2.6ポイント増である。「どちらとも言えない」は2.5ポイン

上段：％
中段：人数
下段：変動（％）

	TOTAL	原発積極度（プラス意見呈示後）					
		使う方がよい	使わざるを得ない	どちらとも言えない	使わない方がよい	使っべきでない	
TOTAL	100.0 229	10.5 24 3.0	35.4 81 3.5	30.6 70 -0.8	15.3 35 -5.2	8.3 19 -0.4	
性 × 年齢	男性計	100.0 118	13.5 16 5.1	37.3 44 -2.5	23.7 28 2.5	17.8 21 -4.2	7.6 9 -0.8
	18～29歳	100.0 20	15.0 3 15.0	35.0 7 -15.0	25.0 5 10.0	15.0 3 -5.0	10.0 2 -5.0
	30～39歳	100.0 31	16.1 5 0.0	25.8 8 -3.2	25.8 8 9.7	22.6 7 -6.4	9.7 3 0.0
	40～49歳	100.0 25	16.0 4 4.0	36.0 9 0.0	20.0 5 -4.0	24.0 6 0.0	4.0 1 0.0
	50～59歳	100.0 18	5.6 1 0.0	44.4 8 0.0	22.2 4 0.0	16.7 3 0.0	11.1 2 0.0
	60～79歳	100.0 24	12.5 3 8.3	50.0 12 4.2	25.0 6 -4.2	8.3 2 -8.4	4.2 1 0.0
	女性計	100.0 111	7.2 8 0.9	33.3 37 9.9	37.8 42 -4.5	12.6 14 -6.3	9.0 10 0.0
	18～29歳	100.0 26	7.7 2 3.9	15.4 4 0.0	42.3 11 -3.9	7.7 2 7.7	26.9 7 0.0
	30～39歳	100.0 21	4.8 1 4.8	38.1 8 9.5	42.9 9 9.6	14.3 3 -9.5	4.8 1 -9.5
	40～49歳	100.0 23	8.6 2 0.0	34.8 8 13.1	30.4 7 -8.7	21.7 5 -4.4	4.3 1 0.0
	50～59歳	100.0 21	4.8 1 0.0	42.9 9 28.6	33.3 7 -23.8	14.3 3 -9.5	4.8 1 4.8
	60～79歳	100.0 20	10.0 2 0.0	40.0 8 0.0	40.0 8 5.0	5.0 1 0.0	5.0 1 -5.0

表6 プラスバイアスによる性・年齢別の変動

トの増加, 否定側は減少で, その中の「使わない方がよい」は4.2ポイント下がって17.8%となっている.

女性では, 積極側に減少はなく, 「使う方がよい」は0.9ポイント, 「使わざるを得ない」が9.9ポイントと大きく増加している. 「どちらとも言えない」と否定側カテゴリーは減少が多く, 「使わない方がよい」は6.3ポイントとその幅が大きい.

以上のようなプラスバイアスによる態度変容を, 男女別にバイアス前とバイアス後の比率で比較した図が図9・1～2である. これを見ると, プラスバイアスによる男性の態度変容は, 各項目ごとに多少の増減はあるものの, バイアスをかける前も後も「使わざるを得ない」を中心とした形の分布となっており, あまり大きな変化は見られない. これに対してプラスバイアスによる女性の態度変容は, バイアス前の態度が「どちらとも言えない」を中心とした山形の分布であるのに対し, バイアスをかけた後は「使わざるを得ない」が増加して肯定側に傾いた分布となり, 女性は男性に比べて, プラスバイアスにより肯定的な方向に態度が変化しやすいことがうかがえる.

これを更に年齢別で比較するのは, 本調査ではサンプル数の都合上あまり好ましくないが, 参考までに性別×年齢別に積極側・中間・否定側の変動を合計して比較すると,

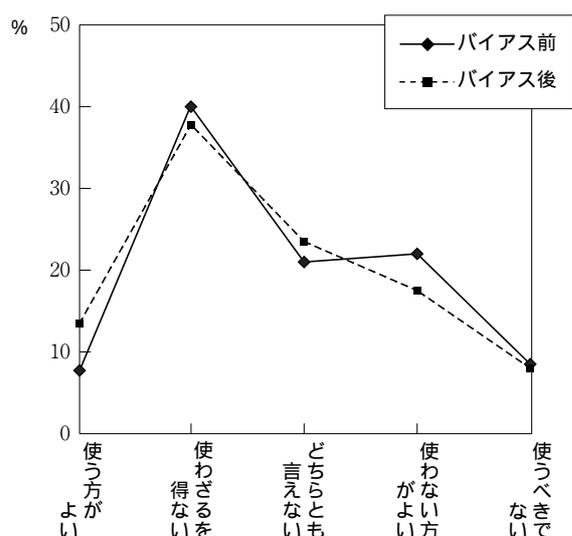


図9・1 プラスバイアスによる態度変容(男性)

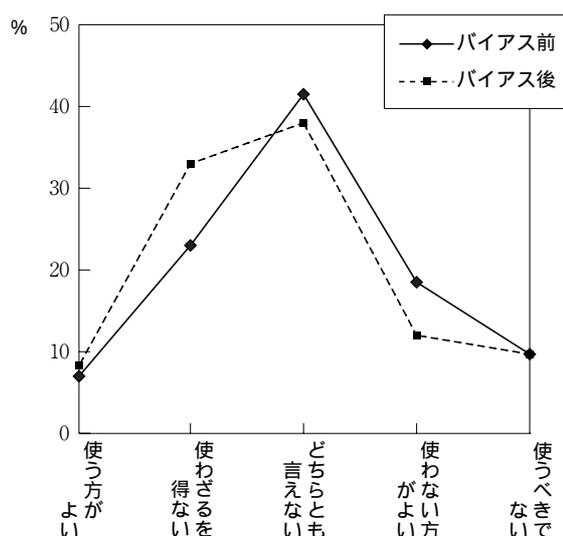


図9・2 プラスバイアスによる態度変容(女性)

(単位: %)

	男 性			女 性		
	積極側	中間	否定側	積極側	中間	否定側
TOTAL	+2.6	+2.5	-5.0	+10.8	-4.5	-6.3
18~29歳	0	+10.0	-10.0	+3.9	-3.9	0
30~39歳	-3.3	+9.7	-6.4	+9.5	+9.6	-19.0
40~49歳	+4.0	-4.0	0	+13.1	-8.7	-4.4
50~59歳	0	0	-0.1	+28.6	-23.8	-4.7
60歳以上	+12.5	-4.2	-8.4	0	+5.0	-5.0

となり、男性でも60歳以上層はプラスバイアスにより女性と同じように積極側が大きく増加し、否定側が減少している。また、女性でも29歳以下と60歳以上では、変化する比率が小さく、バイアスによる影響が小さいものと考えられる。

原子力発電のマイナスバイアスによる意見・態度の変容

マイナスバイアスをかける回答者群にも、プラスの場合と同様に事前に原子力発電利用積極度質問に対する回答を得た。

その後、原子力発電のマイナス局面として呈示された情報は以下のとおりである。

- a. 原子力発電がなくても、環境破壊をおこさない他の方法で今後も電力は充分供給できる。
- b. 将来もっと良い発電方法が開発されると思われるので、原子力発電に将来性があるとは思えない。
- c. 原子力発電所のメンテナンスや、廃棄物処理まで考えると、原子力発電のコストは安くない。
- d. 原子力発電所からの温排水などが、環境に悪影響を及ぼす恐れがある。
- e. 原子力発電所所在地域では、放射能漏れなどの風評で観光や漁業などの産業に悪影響が出たり、原子力発電所のため景観が悪くなり観光客が減るなどして、地域の振興を阻害している。
- f. 日本でいくら安全管理をしても、今後発展途上で原子力発電所がつくられると、安全性が保証されなくなる。
- g. 今の便利な生活を維持するために、原子力発電によって出される高レベル廃棄物を将来にもちこすべきではない。

これら各刺激文ごとに、プラスバイアスのときと同様7段階評定尺度で回答を得た。これに続けて、バイアスを加えた次の設問で原発利用積極度を再度質問した。

原子力発電には前問で申し上げたような欠点があるとされています。これらの点を考慮に加えてお考えいただいた場合、今後の日本の電力需要をまかなうためには原子力発電を積極的に使うべきだと思いますか。それとも使うべきではないと思いますか。次の項目のどれが今のあなたのお気持ちに最も近いかお答え下さい。

1. 積極的に使うべきだ
2. 使う方がよい
3. 使わざるを得ない
4. どちらとも言えない
5. 使わない方がよい
6. 使うべきではない
7. 絶対使ってはいけな

このバイアス後の回答と事前回答を比べると図10となった。

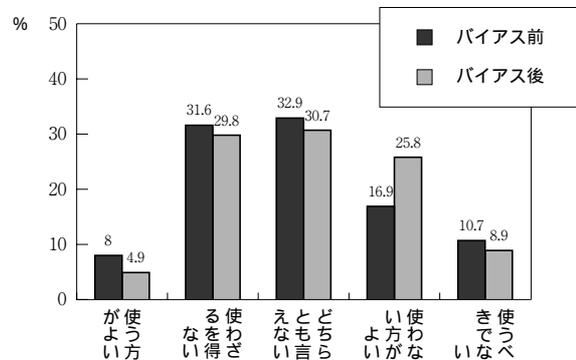


図10 マイナスバイアスによる態度変容 (全体)

図に見るとおり、マイナス条件呈示後もそれほど大きな変動はないが、積極側の回答比率は低下し、かわって「使わない方がよい」で、事前質問での16.9%が25.8%に上昇している。積極側項目合計は39.6%から34.7%へと5ポイント減少し、否定側項目合計は27.6%から34.7%と7ポイント増加している。

これら各回答カテゴリーの比率変動部分に視点をおいて、性別でそれがどう異なるかを明らかにする(表7)。

上段：％
中段：人数
下段：変動（％）

	TOTAL	原発積極度（マイナス意見呈示後）					
		使う方がよい	使わざるを得ない	どちらとも言えない	使わない方がよい	使うべきでない	
TOTAL	100.0 225	4.9 11	29.8 67	30.7 69	25.8 58	8.9 20	
		-3.1	-1.8	-2.2	8.9	-1.8	
性 × 年 齢	男性計	100.0 95	9.5 9	30.5 29	22.1 21	29.5 28	8.4 8
			-5.2	-3.2	-4.2	16.9	-4.3
	18～29歳	100.0 19	31.6 6	42.1 8	10.5 2	15.8 3	-5.3
			-21.0	15.8	10.5	0.0	-5.3
	30～39歳	100.0 14	28.6 3	21.4 4	28.6 3	21.4 4	0.0
			0.0	-7.1	0.0	7.2	0.0
	40～49歳	100.0 15	13.3 2	40.0 6	20.0 3	13.3 2	13.3 2
			0.0	0.0	6.7	0.0	-6.6
	50～59歳	100.0 24	12.5 3	25.0 6	25.0 6	29.2 7	8.4 2
			-4.1	8.3	-4.2	20.9	-4.1
	60～79歳	100.0 23	4.3 1	30.4 7	4.3 1	56.5 13	4.3 1
			0.0	-13.1	-26.1	43.5	-4.3
	女性計	100.0 130	1.5 2	29.2 38	36.9 48	23.1 30	9.2 12
			-1.6	-0.8	-0.8	3.1	0.0
18～29歳	100.0 28	10.7 3	53.6 15	25.0 7	10.7 3	10.7 3	
		0.0	-14.3	17.9	0.0	-3.6	
30～39歳	100.0 26	30.8 8	38.5 10	23.1 6	23.1 6	7.7 2	
		0.0	-3.8	-7.7	11.6	0.0	
40～49歳	100.0 31	3.2 1	25.8 8	25.8 8	35.5 11	9.7 3	
		3.2	-6.5	0.0	0.0	3.2	
50～59歳	100.0 25	64.0 16	24.0 6	8.0 2	4.0 1	4.0 1	
		-12.0	36.0	-16.0	-8.0	0.0	
60～79歳	100.0 20	5.0 1	15.0 3	45.0 9	20.0 4	15.0 3	
		0.0	-15.0	0.0	15.0	0.0	

表7 マイナスバイアスによる性・年齢別の変動

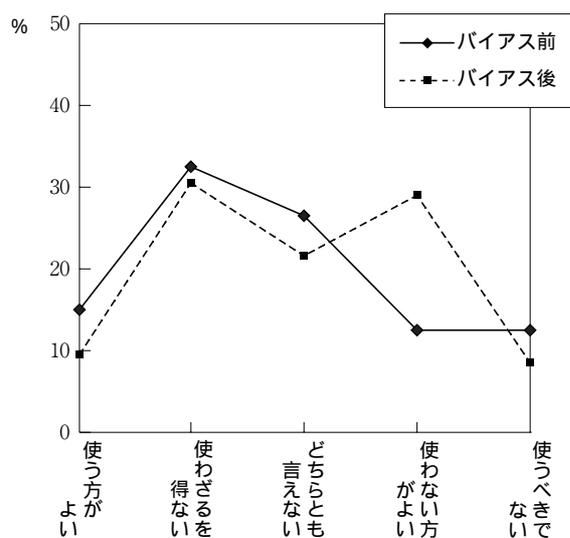


図11-1 マイナスバイアスによる態度変容（男性）

まず男性では、「使う方がよい」が - 5.2ポイント、「使わざるを得ない」は - 3.2ポイントと減少し、「どちらとも言えない」も4.2ポイント減少している。否定側では「使うべきではない」が4.3ポイント減るものの、「使わない方がよい」が16.9ポイントと大幅に増加し、全体として否定側へ大きくシフトしたことが見てとれる。

女性の方は変動が小さめで積極側は少々減少し、否定側が増えてはいるが、「使わない方がよい」の3.1ポイント程度にとどまっている。

図11-1～2は、マイナスバイアスによる男女別の態度変容を表している。男性の方は、バイアスがかかる前の態度はやはり「使わざるを得ない」を中心とした分布になっているが、マイナスバイアスかけると、「使わない方がよい」という回答の比率が大幅に増加し、「どちらとも言えない」以上の積極側の回答がそれぞれ減少して、「使わざるを得ない」と「使わない方がよい」を中心としたM形の分布に変化したことがわかる。これに対して女性は、マイナスバイアスかける前も後も「どちらとも言えない」を中心とした分布で、男性のような否定方向への変化はほとんど見られない。よって、マイナスバイアスにより、男性は態度を否定方向へ変えやすいが、女性はその影響をあまり受けないことがうかがえる。

参考までに男女・年齢別に積極側・中間・否定側への変動比率を合計すると、

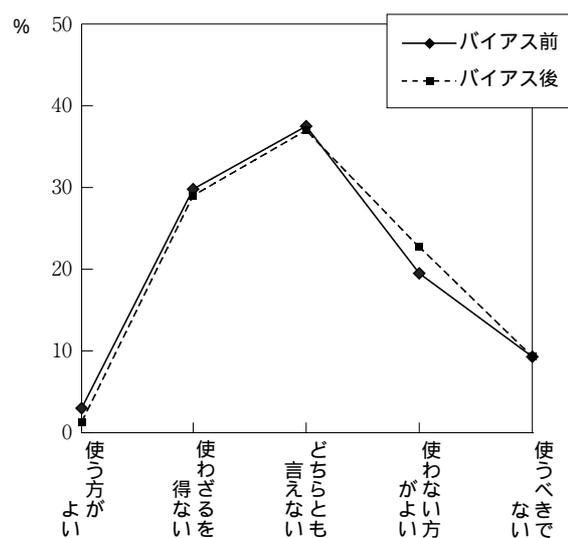


図11-2 マイナスバイアスによる態度変容（女性）

(単位: %)

	男 性			女 性		
	積極側	中間	否定側	積極側	中間	否定側
TOTAL	- 8.4	- 4.2	+ 12.6	- 2.4	- 0.8	+ 3.0
18 ~ 29歳	- 5.2	+ 10.5	- 5.3	- 14.3	+ 17.9	- 3.6
30 ~ 39歳	- 7.1	0	+ 7.2	- 3.8	- 7.7	+ 11.7
40 ~ 49歳	- 0.1	+ 6.7	- 6.6	- 3.3	0	+ 3.2
50 ~ 59歳	- 12.4	- 4.2	+ 16.8	+ 24.0	- 16.0	- 8.0
60歳以上	- 13.1	- 26.1	+ 39.1	- 15.0	0	+ 15.0

となり、全体的にはマイナスバイアスにより女性よりも男性の方がバイアス方向に大きく態度・意見を変えやすく、特に高齢層で否定側へ大きく変動するが、女性でも60歳以上層では否定方向へシフトする比率が比較的高いと言えよう。

以上、バイアスケステションを使用して、原子力発電に対する態度の変容における性(年齢)による差異を見てきたが、ここでのバイアスケステションによる態度変容は本来、動きやすいかどうかという態度の強さを測定するためのものであり、この変化した態度がどのくらい継続するものであるのか、すなわち態度が根本から変化したのかどうかということについては本調査では言及できない。

また、冒頭でも述べたように、本調査はあくまで小規模での予備的調査であり、男女差を明らかにできる程度に設定しているため標本数はやや小さい。このため、バイアスケステションの種類により回答者を二分し、それを男女に分けて更に年齢別に層別した部分の結果については、各層のサンプル数が非常に小さくなり、誤差の影響が大きくなるなどの不都合が生じている可能性が高いことを述べておかなければならない。

今後、これらを踏まえ、標本数を増やしたり調査を数回繰り返すなどして信頼性・妥当性を検証していく必要がある。

3.3 原子力発電に対する態度の特徴

ここでは、原子力発電に対する態度と他の項目に対する反応との関連を明らかにし、更に男女別の肯定層・中間層・否定層のそれぞれの特徴を明らかにしていく。

3.3.1 原子力発電についての主観的知識量との関連

原子力発電について、自分ではどの程度詳しいと思っているかという主観的判定による知識量と、原子力発電の利用積極度の関係は図12のようになった。

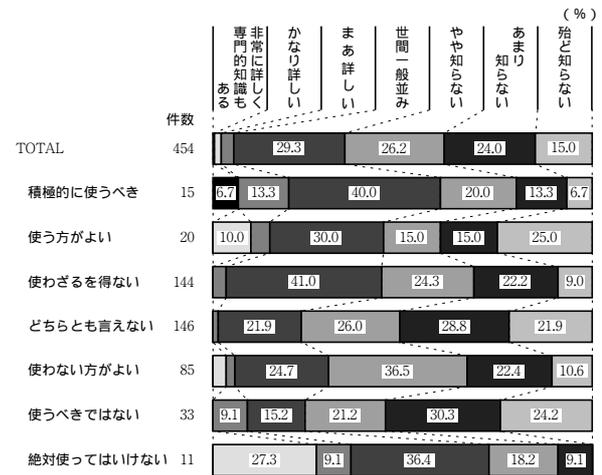


図12 原子力発電の知識量と原発利用積極度

関連の存在は明らかであるが、図に見るとおり直線的なものではない。かなりばらつきはあるが大きくまとめると、「使わざるを得ない」以上の容認層、積極層では「世間一般並み」以上の詳しい方で比率が高く、また、ちょうど逆の「使わない方がよい」以下の否定層でもここがやや高い。中間層は「やや知らない」以下が多めになっていて、全体としてU字型に比率の高い部位が位置する。すなわち、「詳しい」と思っている人が、原子力利用の肯定・否定に分かれ、「知らない」と思っている人は中間的態度を示す。

この傾向は男女をそれぞれ肯定層・中間層・否定層に分けて比較しても同様の傾向が見られるが、女性は、どの層においても「やや知らない」以下が大半を占め、特に中間層でその傾向が著しく、男性に比べて原子力発電に関する知識不足の認識が高くなっている。

3.3.2 原子力発電に対する不安感との関連

原子力発電に対して持つ不安感の程度との関連は

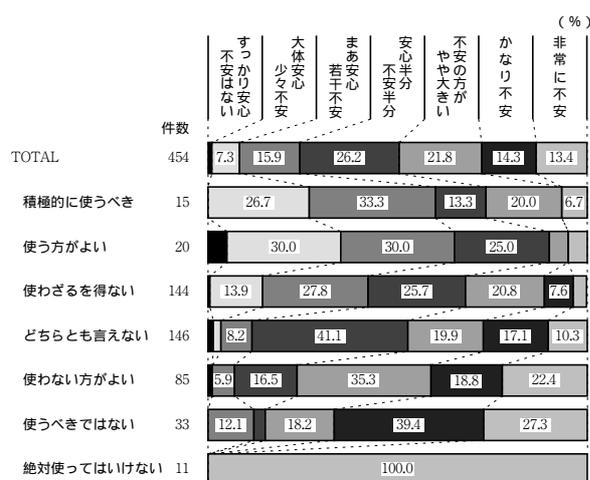


図13 原子力発電不安度と原発利用積極度

図13に見るとおりとなった。

まず、全体結果を見ると、「安心半分不安半分」が最多で、これを中心に安心側と不安側とに分布するが、不安側の方が比率が高く、また、不安度が強いカテゴリーでも14%前後を示してあまり率が低下しない。すなわち、不安側へ偏った分布である。安心 - 不安度と原子力発電利用積極度との間には明確な関連が見られる。その具体的な内容は図に見られるとおりで、安心側カテゴリーでは「積極的に使うべき」「使う方がよい」という積極層で比率が高く、中間層では「安心半分不安半分」、否定側の各層では、その否定度が強いほど、不安の大きな項目での比率が高い。安心でなければ利用に積極的にはなれないものであろうから、この結果は当然であるが、予想以上に相関が高く、原子力発電利用積極度は、安心 - 不安度と非常に強く結びついていると言え、当初予測していたとおり、原子力発電に対する態度には不安が大きく影響することが明らかとなった。

これを更に男女別で比較すると、否定層では男性よりも女性の方が不安を感じる比率が高くなっているが、中間層・肯定層では女性で不安を感じる割合は男性と同等あるいはそれ以下となっている。言い換えると、原子力発電に対する不安感と態度との関連は男性よりも女性の方でよりその結びつきが強く、肯定的な態度を示す層において不安を感じる比率は低い、否定的な態度を持つ層では原子力発電

に対して不安を抱いている割合が高くなっている。

また、このような不安感あるいは安心感が何らかの根拠に基づくものであるのか、ただ何となく感性的なものであるのかについて、男女間に差があるのかどうかをみておくこととする。表8に見るとおり、肯定・中間・否定のどの層においても全体的に女性の不安・安心の感じ方は男性に比べて理由や根拠のない感性的なものである。女性の中においても否定層は他層に比べて理由や根拠に基づく割合が大きくなっているが、それでも半数には及ばず、男性の否定層とはやや性質の異なるものだと思われる。すなわち、肯定層・中間層は男女とも理由や根拠なく感性的に不安・安心を感じる比率が高いが、否定層においては男性は何らかの理由や根拠があって不安・安心を感じる方が多いのに対し、女性では何となく感性的な感じ方をする割合の方がやや高い。

男性

	自分なりの理由・根拠あり	何となく
肯定層	35%	65%
中間層	18%	82%
否定層	61.7%	38.3%

女性

	自分なりの理由・根拠あり	何となく
肯定層	25%	75%
中間層	13.5%	86.5%
否定層	44.9%	55.1%

表8 各層の安心・不安の感じ方

3.3.3 自然環境観との関連

次に、自然環境観と原子力発電利用積極度との関連を見る。

自然環境変化の評価との関連

自然環境の現状が以前と比べてどのように変化したと思うかの評価は、全体として悪くなったとみる比率が半数以上を占めている。原子力発電利用積極度との関連についてはあまり明確ではないが、他に比し相対的に高い比率を示す部位は、表9に見るとおりである。「積極的に使うべき」「使う方がよい」

上段：％
下段：人数

	TOTAL	Q11 自然環境変化評価						
		以前より ずっと 良くなった	以前より 良くなった	変わらない	以前より 悪くなった	以前より ずっと 悪くなった	無 回 答	
TOTAL	100.0 454	2.2 10	9.7 44	22.9 104	50.9 231	14.1 64	0.2 1	
Q18 原子力発電利用積極度	積極的に使うべき	100.0 15	6.7 1	20.0 3	20.0 3	53.3 8		
	使う方がよい	100.0 20	5.0 1	15.0 3	35.0 7	35.0 7	10.0 2	
	使わざるを得ない	100.0 144	2.1 3	9.0 13	23.6 34	56.3 81	9.0 13	
	どちらとも言えない	100.0 146	2.1 3	11.6 17	25.3 37	47.9 70	13.0 19	
	使わない方がよい	100.0 85	2.4 2	7.1 6	16.5 14	51.8 44	21.2 18	1.2 1
	使うべきでない	100.0 33		6.1 2	18.2 6	51.5 17	24.2 8	
	絶対使ってはけない	100.0 11			27.3 3	36.4 4	36.4 4	

表9 自然環境変化の評価と原発利用積極度

の積極層は、「以前より良くなった」以上で、中間層はやや不鮮明であるが、「使うべきではない」「絶対使ってはけない」の否定層では、「以前よりずっと悪くなった」で比率が高い。つまり、相対的にはあるが積極層の方が自然環境が良くなっていると見ており、逆に否定層は悪くなっていると見ている傾向がある。

男女別では、中間・否定層は男女ともほぼ同じ様な分布であるが、肯定層では女性の方が男性に比べて悪くなったと見る比率がやや小さく、女性の肯定層は男性に比べると自然環境の変化について多少楽観的である。

自然環境の将来の変化見通しとの関連

大気環境と緑の環境が将来どのようなようになるかの見通しとの関連は、図14、15に見るとおりで、大気環境と緑の環境の両方で同じ傾向が見られる。つまり、どの層でも「今より悪くなる」が最多ではあるが、「積極的に使うべき」「使う方がよい」の積極層では、相対的に高めの比率が「変わらない」か「良くなる」に位置するのに対し、「使うべきでない」「絶対使ってはけない」の否定層では「今よりずっと悪くなる」が高率である。原子力発電の

利用に否定的な層ほど、大気と緑の環境の両方が、これからもっと悪くなると見ていることになる。

これを男女別に比較すると、全体に大気も緑も悪くなるとみる比率が高い中で、女性の間層ではそれがやや低く、特に緑の環境に関してその傾向がみられる。また、男性の否定層では「ずっと悪くなる」という反応が他に比べて多くなっている。

「経済発展・生活向上 対 環境汚染・自然破壊」選択度との関連

これは、「経済発展・生活向上のため、自然破壊があっても発電量を増やすか」それとも「経済力低下・生活ダウンしても発電量を抑えるか」との対立する2つの意見について、二者択一ではなく、それぞれにどの程度賛成する気持ちがあるのかの比率を訊いた質問への回答であり、回答パーセントは、一種のマインドシェアである。設問では、一方を良くするためにはもう一方が悪くなるトレードオフの条件が附加されており（犠牲になるべきものが前者では自然環境、後者では経済と生活となっている）、択一に割り切らせた回答では歪みが大きくなるのでマインドシェアとしてとったものである。両項への回答パーセントの分布は100となるものなので、従

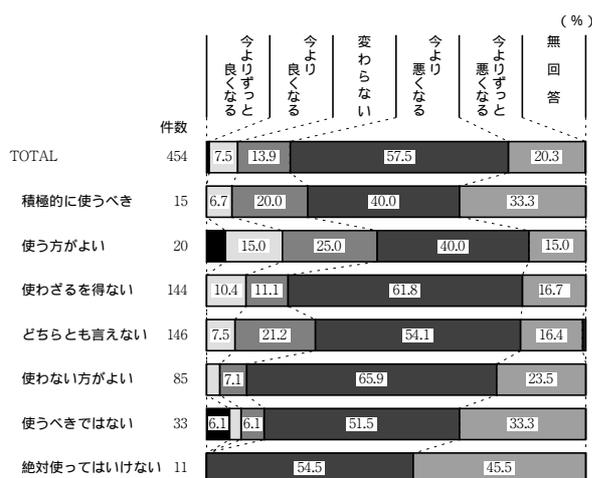


図14 大気環境変化の見通しと原発利用積極度

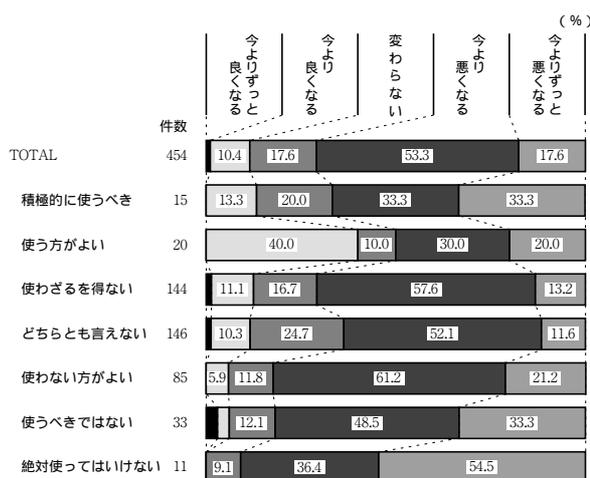


図15 緑環境の変化の見通しと原発利用積極度

	TOTAL	Q25 トレードオフ A. 増加シェア											平均割合	
		{	{	{	{	{	{	{	{	{	{	無		
		10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	回答		
TOTAL	454	7.7	7.3	10.4	14.8	30.6	14.5	7.3	5.3	1.1	0.7	0.4	45.84	
Q18 原子力発電利用積極度	積極的に使うべき	15	6.7		6.7	20.0	20.0	26.7	13.3	6.7			61.00	
	使う方がよい	20				35.0	25.0		25.0	10.0	5.0	66.50		
	使わざるを得ない	144	2.8	7.6	7.6	15.3	30.6	15.3	11.8	6.9	0.7	0.7	49.76	
	どちらとも言えない	146	5.5	4.1	9.6	20.5	36.3	12.3	6.2	3.4	0.7	0.7	46.33	
	使わない方がよい	85	8.2	9.4	15.3	15.3	30.6	18.8	2.4					40.98
	使うべきではない	33	24.2	18.2	27.3	3.0	15.2	6.1	3.0	3.0				29.27
	絶対使ってはいけない	11	72.7	9.1			9.1		9.1					17.27

表10 「経済発展・生活充実」選択度と原発利用積極度

って、片方の結果を読めばよい。

ここでは「経済発展・生活向上のため、公害や自然破壊が伴っても電力を増やす」との開発志向側の結果を示す(表10)。

この関連の実態を見ると、まず全体結果では最頻度数は「～50%」の30.6%で、これを中心に上下に正規形に分布している。しかし、「積極的に使うべき」層では「～70%」が最多であり、また「～100%」を除くそれ以上の%カテゴリーで他より高い比率を示している。「使う方がよい」は「～50%」

が最多であるが、それ以上の%カテゴリーでの比率が高い。中間各層では、中位の%で高めの比率が散見され、「使うべきではない」では「～30%」以下カテゴリーで、「絶対使ってはいけない」層は「～10%」の小さいマインドシェアでの比率が高い。

以上のとおり、積極層の方は開発発展志向性が強く、逆に否定層ではこれが小さいという関連が明らかであるが、このような問題においてはどちらかの意見に全面的に賛成する人はごくわずかで、ほとんどの人はある割合でどちらかに傾いているに過ぎない。

いということがわかる。

男女に分けても上記と同様の傾向が見られる。しかし、各層ごとに男女で分布を比較すると、まず肯定層では男性に比べて女性の「～50%」が多く、その分開発志向と環境重視のどちらにも傾く比率が小さくなっている。中間層においては男性に比べて女性は環境重視が少なく、開発志向がやや多い。否定層においては女性の「～50%」が男性に比べて相対的に少なく、その分環境重視が若干多くなっている。

4. まとめ

以上、原子力発電に対する公衆の態度に関して、男女差という観点を中心に、態度ごとの特徴や関連する事象、不安の多様性および態度の強度について述べてきた。これらは、今までの調査を基底におき、更に新しい試みをいくつか取り上げた点において、原子力発電に対する一般の人々の態度を理解する上で役立つものと思われる。しかし本調査はあくまで探索的な予備的調査であり、はっきりと結論づけるには、更に質問内容をしぼり、サンプル数を増やし

て細かな層別の比較に耐え得るような本格調査を実施し、信頼性・妥当性を検証する必要がある。今後は、地域差による態度の特徴なども考慮して、原子力発電に対する公衆の態度の構造についてより一層の理解を深めるべく発展させていきたい。

参考文献

- (1) 林 知己夫 守川伸一, 国民性とコミュニケーション(原子力発電に対する態度構造と発電側の対応のあり方), INSS JOURNAL, NO.1, 93-158, 1994
- (2) 橋口捷久ほか, 原子力発電所に対するイメージ, INSS JOURNAL, NO.2, 104-126, 1995
- (3) 下岡 浩, 原子力発電に対する公衆の態度決定構造 日本原子力学会誌, vol.35, NO.2, 115-123 (1993)

付録

調査票と単純集計結果

付録

環境と発電についての意見調査

TOTAL N = 454

男 N = 213

女 N = 241

第5127号 1995.12.

地区	個番	対象者ご住所	調査員氏名
		市 丁 番 号 方	
		区 町 目 庄	

〔まず、最初にあなたご自身のことをお伺いいたします。〕

TOTAL		
F0) 性別	46.9	1. 男
	53.1	2. 女

F1) あなたは、現在満何才ですか。

	18 }	25 }	30 }	35 }	40 }	45 }	50 }	55 }	60 }	65 }	平均
	24	29	34	39	44	49	54	59	64	79	
TOTAL	12.6	7.9	10.1	10.1	9.9	10.8	11.7	7.7	7.7	11.5	44.33
男	12.2	6.1	11.3	9.9	8.5	10.3	13.6	6.1	10.8	11.3	45.04
女	12.9	9.5	9.1	10.4	11.2	11.2	10.0	9.1	5.0	11.6	43.70

F2) お宅の世帯主の方から見たあなたの続柄は、以下のどれに当たりますか。

TOTAL	男	女		TOTAL	男	女	
44.9	81.2	12.9	1. 世帯主本人	8.1	17.4	-	5. 息子
32.6	-	61.4	2. 妻	9.9	-	18.7	6. 娘
0.7	1.4	-	3. 父	0.9	-	1.7	7. その他
2.9	-	5.4	4. 母				

F3) あなたの最終学歴をお教え下さい。

TOTAL	男	女		TOTAL	男	女	
4.2	4.2	4.1	1. 小学校(国民学校)卒	17.2	5.2	28.2	4. 新制短大、新制高専、旧制専門学校卒
10.8	11.3	10.4	2. 新制中学、旧制高小卒	24.2	37.1	12.9	5. 大学(以上)卒
41.4	39.9	42.7	3. 新制高校、旧制中学卒	2.0	2.3	1.7	6. NA

SF1) あなたが最後に出られた学校での専攻は、文科系ですか。理科系ですか。

TOTAL	男	女	
35.0	33.3	36.5	1. 文科系
12.6	20.7	5.4	2. 理科系
52.0	45.5	57.7	3. どちらでもない
0.4	0.5	0.4	無回答

F4) あなたは、どんな職業についておられますか。

TOTAL	男	女		TOTAL	男	女	
20.7	26.3	15.8	1. 事務系勤め人(デスクワーク、営業等)	0.4	0.9	-	7. 農林漁業
9.5	12.7	6.6	2. 現場系勤め人(工場現場、店頭勤務等)	4.4	6.6	2.5	8. 自由業(医師、弁護士、芸術家等)
7.5	15.0	0.8	3. 管理職(課長、職長以上)	16.1	-	30.3	9. 主婦(専業)
4.2	7.0	1.7	4. 経営者、役員	9.3	-	17.4	10. 主婦(パート勤務)
5.5	9.4	2.1	5. 商工サービス業自営	7.0	8.0	6.2	11. 学生
3.3	0.5	5.8	6. 家業従業員	11.5	12.2	10.8	12. 無職・その他
				0.7	1.4	-	無回答

F5) お家で一緒にお住まいのご家族の方々の性別と年齢をお教え下さい。

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答	平均
TOTAL	7.0	20.5	19.2	28.4	14.3	10.4	0.2	3.58
男	7.0	23.0	19.2	31.0	10.8	8.5	0.5	3.42
女	7.1	18.3	19.1	26.1	17.4	12.0	-	3.71

	F5 世帯構成																			1人世帯	無回答
	1 世代世帯						2 世代世帯						3 世代世帯								
	新婚期	乳幼児期	学齢期	混合期	独立期	成人期	老齢期	新婚期	乳幼児期	学齢期	混合期	独立期	成人期	新婚期	乳幼児期	学齢期	混合期	独立期	成人期		
TOTAL	4.8	6.2	16.7	5.7	20.0	5.1	14.3	-	2.4	5.5	4.0	5.7	0.2	-	0.4	0.2	-	-	-	7.0	1.5
男	5.6	7.0	16.0	5.2	21.6	5.2	17.4	-	2.8	3.8	2.8	3.3	-	-	-	-	-	-	-	7.0	2.3
女	4.1	5.4	17.4	6.2	18.7	5.0	11.6	-	2.1	7.1	5.0	7.9	0.4	-	0.8	0.4	-	-	-	7.1	0.8

Q1) あなたは、日頃のあなたの生活を豊かだと思っておられますか。それとも豊かでないと思っておられますか。

TOTAL	男	女	
55.3	51.2	58.9	1. 豊かだ
43.4	46.9	40.2	2. 豊かではない
1.3	1.9	0.8	無回答

SQ1) そうお考えになるのは、あなたご自身が求められている水準に照らしてですか。それとも世間一般の他の人々の生活に比べてですか。

TOTAL	男	女	
60.4	60.6	60.2	1. 自分の欲求水準に照らして見て
39.2	38.5	39.8	2. 世間の他の人々の生活に比べて見て
0.4	0.9	-	無回答

SQ2) あなたがお答えになったのは、モノの豊かさの側面からですか。それとも趣味や文化、心のやすらぎ等の精神的豊かさの側面からですか。

TOTAL	男	女	
12.8	15.0	10.8	1. モノの側面
20.3	17.8	22.4	2. 精神的側面
66.5	66.2	66.8	3. 両方
0.4	0.9	-	無回答

Q2) これからの生き方として、あなたは物質的豊かさをより充実させたいとお考えですか。それとも、これからは精神的豊かさを充実させたいとお考えですか。次の回答項目の中で、あなたのお考えに最も近いものをお答え下さい。

TOTAL	男	女	
4.0	3.8	4.1	1. まだまだモノの豊かさを充実させていきたい
12.3	13.1	11.6	2. モノの豊かさを充実をすすめるが、精神的豊かさも少しは充実させたい
46.0	41.8	49.8	3. モノの豊かさと精神的豊かさを同程度に充実させていきたい
25.1	24.4	25.7	4. モノの豊かさを充実は程々にして、これからは精神的豊かさを充実をすすめたい
12.3	16.9	8.3	5. これ以上モノの豊かさを求めず、精神的豊かさの方を充実させていきたい
0.2	-	0.4	無回答

Q3) 人の暮らし方には、いろいろあるでしょうが、次にあげるもののうちで、どれが一番あなた自身の気持ちに近いものですか。

TOTAL	男	女	
7.3	8.5	6.2	1. 一生懸命に働き、金持ちになること
2.0	2.8	1.2	2. 真面目に勉強して、名をあげること
43.0	44.6	41.5	3. 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をすること
31.3	26.8	35.3	4. その日その日を、のんきにクヨクヨしないで暮らすこと
5.5	5.2	5.8	5. 世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しく暮らすこと
3.3	3.8	2.9	6. 自分の一身のことを考えずに、社会のために全てを捧げて暮らすこと
6.6	7.0	6.2	7. その他()
1.1	1.4	0.8	無回答

Q4) 次にあげる「雪男」から「鬼」まで、1つ1つについて、あなたはどんな感じを持ちますか。1~8の言葉をよくご覧になって、「雪男」から「鬼」まで、それぞれについて、あなたのお気持ちに最もピッタリする言葉を1~8の中から1つずつ選んで下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9
つまらない	いあってほしい	いる・ある	こわい	いてほしくない	たおもしろい	いばかない	こわくない	無回答

a. 雪男

TOTAL	11.2	12.8	8.8	7.3	7.3	13.0	24.2	3.5	11.9
男	13.1	15.0	8.0	2.8	4.7	16.4	27.2	2.3	10.3
女	9.5	10.8	9.5	11.2	9.5	10.0	21.6	4.6	13.3

b. ネッシー

TOTAL	11.0	26.0	8.4	1.8	4.0	15.0	23.8	0.7	9.5
男	11.3	28.2	6.6	-	1.9	16.9	25.8	0.5	8.9
女	10.8	24.1	10.0	3.3	5.8	13.3	22.0	0.8	10.0

c. 空飛ぶ円盤・宇宙人

TOTAL	8.1	14.8	23.8	4.0	6.8	18.3	17.0	0.4	6.8
男	9.9	18.8	22.5	1.9	3.3	17.4	18.3	0.9	7.0
女	6.6	11.2	24.9	5.8	10.0	19.1	15.8	-	6.6

d. 幽霊・亡霊

TOTAL	7.0	2.6	21.1	19.8	18.7	2.9	19.6	2.0	6.2
男	10.3	4.7	19.2	13.1	15.0	3.3	23.9	2.3	8.0
女	4.1	0.8	22.8	25.7	22.0	2.5	15.8	1.7	4.6

e. カップ

TOTAL	11.0	13.2	6.6	1.8	5.7	24.2	26.9	2.2	8.4
男	12.7	14.6	6.1	1.4	1.9	24.4	27.2	0.9	10.8
女	9.5	12.0	7.1	2.1	9.1	24.1	26.6	3.3	6.2

Q4) つづき

	1 つまらない	2 いあってほしい	3 いる・ある	4 こわろしい	5 あつてほしくない	6 おもしろい	7 いなかばかしい	8 こわくない	9 無回答
TOTAL	12.6	4.6	3.5	10.8	17.2	11.7	30.8	1.1	7.7
f. 妖怪.....	男 16.0	5.2	2.3	7.0	11.7	14.1	34.7	0.5	8.5
	女 9.5	4.1	4.6	14.1	22.0	9.5	27.4	1.7	7.1
TOTAL	11.2	13.9	30.2	2.2	4.2	11.0	17.6	0.7	9.0
g. 超能力・念力	男 13.6	9.9	28.2	2.3	3.8	9.9	20.7	1.4	10.3
	女 9.1	17.4	32.0	2.1	4.6	12.0	14.9	-	7.9
TOTAL	7.5	1.1	14.5	22.9	24.9	1.5	20.0	0.2	7.3
h. 人のたたり	男 11.7	0.9	15.5	16.0	22.5	0.9	22.5	-	9.9
	女 3.7	1.2	13.7	29.0	27.0	2.1	17.8	0.4	5.0
TOTAL	8.8	1.1	9.0	22.5	28.6	1.5	20.9	0.9	6.6
i. 人を呪い殺すなどの怨霊	男 12.7	1.4	10.3	15.5	24.4	0.9	25.4	0.5	8.9
	女 5.4	0.8	7.9	28.6	32.4	2.1	17.0	1.2	4.6
TOTAL	7.7	37.4	2.0	0.7	4.4	24.9	14.3	0.2	8.4
j. 過去や未来へ行けるタイムマシン	男 8.9	32.9	3.3	-	4.2	23.9	16.0	-	10.8
	女 6.6	41.5	0.8	1.2	4.6	25.7	12.9	0.4	6.2
TOTAL	10.4	16.5	4.0	7.0	6.6	13.7	25.6	2.9	13.4
k. 龍	男 11.3	19.2	3.3	2.8	2.3	17.8	27.7	1.9	13.6
	女 9.5	14.1	4.6	10.8	10.4	10.0	23.7	3.7	13.3
TOTAL	9.9	5.7	5.1	15.2	14.8	10.8	26.0	2.4	10.1
l. 鬼.....	男 11.3	7.0	4.7	10.8	8.0	15.5	29.1	1.9	11.7
	女 8.7	4.6	5.4	19.1	20.7	6.6	23.2	2.9	8.7

Q5) あなたは、次にあげるような事柄が普段気になりますか。それとも気になりませんか。それぞれについてお答え下さい。

	1 気にならない	2 すこし気になる	3 ぜんぜんならない	4 無回答
TOTAL	21.4	47.8	28.9	2.0
a. 仏滅の日に結婚式をあげる	男 20.2	44.6	32.9	2.3
	女 22.4	50.6	25.3	1.7
TOTAL	32.6	45.8	19.8	1.8
b. 友引の日に葬式をする	男 26.3	46.0	25.4	2.3
	女 38.2	45.6	14.9	1.2
TOTAL	25.8	42.3	28.9	3.1
c. 悪い方角に移転する	男 16.4	42.3	38.5	2.8
	女 34.0	42.3	20.3	3.3
TOTAL	20.0	41.9	34.6	3.5
d. 命名するときの字画の数	男 18.8	36.2	40.8	4.2
	女 21.2	46.9	29.0	2.9

Q5) つづき

	1 気た に い へ ん	2 気 に こ し な る	3 ぜ ん ぜ ん な ら な い	4 無 回 答
e. 三隣亡の日に家を建てる	TOTAL 24.2	40.5	28.4	6.8
	男 18.8	38.0	37.1	6.1
	女 29.0	42.7	20.7	7.5
f. いやな夢を見る	TOTAL 14.5	48.0	34.6	2.9
	男 8.9	46.0	41.8	3.3
	女 19.5	49.8	28.2	2.5
g. 北に頭を向けて寝る	TOTAL 18.3	34.4	45.2	2.2
	男 16.9	31.9	48.8	2.3
	女 19.5	36.5	41.9	2.1
h. 葬式から帰ったときに塩をまくことを忘れた	TOTAL 12.8	41.4	43.6	2.2
	男 8.9	38.5	49.8	2.8
	女 16.2	44.0	38.2	1.7

Q6) あなたは性分として心配性ですか。それとも、のんきな方ですか。

TOTAL	男	女		TOTAL	男	女	
8.4	6.6	10.0	1. 非常に心配性だ	24.9	26.3	23.7	4. どちらかといえばのんきな方だ
18.5	17.8	19.1	2. 心配性だ	7.5	8.5	6.6	5. のんきだ
39.2	39.4	39.0	3. どちらかといえば 心配性の方だ	1.1	1.4	0.8	6. 非常にのんきだ
				0.4	-	0.8	無回答

Q7) ところで「原子力」「原子力発電」と言われた時、あなたは何を連想されますか。ご自由にお答え下さい。

回答略

Q8) あなたは、自分が正しいと思えば世の中のしきたりに反しても、それを押し通すべきだと思いますか。それとも世間のしきたりに従った方が間違いないと思いますか。

TOTAL	男	女	
11.5	12.7	10.4	1. 押し通せ
9.9	8.5	11.2	2. 従え
78.4	78.9	78.0	3. 場合による
0.2	-	0.4	4. その他 ()

Q 9) 自分が正しいと思ったことを、他の人に十分説明しても、聞き入れられない場合、次のどちらの態度をとる人が望ましいと思いますか。

TOTAL	男	女	
25.3	30.5	20.7	1. 他の人の反対を押し切っても実行する人
46.9	45.1	48.5	2. 反対があれば、実行をとりやめる人
10.4	9.9	10.8	3. その時の状況による
2.9	2.8	2.9	4. もう一度説得する
4.2	3.3	5.0	5. 話し合い良い方法を選択する
9.3	6.6	11.6	6. その他
1.1	1.9	0.4	無回答

Q 10) あなたは、人生の目標というべきものを、明確に持っておられますか。そうでありませんか。

TOTAL	男	女	
11.2	15.5	7.5	1. 達成したい人生目標を明確に持っている
23.6	25.8	21.6	2. 達成できたらなと思っている人生目標がある
51.1	44.6	56.8	3. 人生目標と言う程ではないが、そうなればよいと思っていることはある
14.1	14.1	14.1	4. 今のところ、人生目標というものを決めかねている

Q 11) あなたが日常生活をおくられる地域の緑や大気等の自然環境は、以前に比べて良くなっていると思われませんか。悪くなっていると思われませんか。

TOTAL	男	女	
2.2	1.9	2.5	1. 以前よりずっと良くなってきた
9.7	8.9	10.4	2. 以前よりは良くなってきた
22.9	22.1	23.7	3. 変わらない
50.9	50.7	51.0	4. 以前より悪くなってきている
14.1	16.4	12.0	5. 以前よりずっと悪くなった
0.2	-	0.4	無回答

SQ 1) そうお考えになるのは、主として緑の環境に関してですか、それとも大気に関してですか。

TOTAL	男	女	
17.6	15.5	19.5	1. 緑の環境
19.6	23.5	16.2	2. 大気
62.6	61.0	63.9	3. 両方
0.2	-	0.4	無回答

Q 12) あなたをとりまく自然環境は、今のままで推移していくと、将来どのようになると思われますか。まず、大気についてのあなたの見通しをお聞かせ下さい。

TOTAL	男	女	
0.7	1.4	-	1. 今よりはずっと良くなる
7.5	6.6	8.3	2. 今よりは良くなるだろう
13.9	11.7	15.8	3. 変わらない
57.5	56.3	58.5	4. 今より悪くなるだろう
20.3	23.9	17.0	5. 今よりずっと悪くなりそうだ
0.2	-	0.4	無回答

SQ1) では、緑の環境はどうかと思われませんか。

TOTAL	男	女	
1.1	0.9	1.2	1. 今よりはずっと良くなる
10.4	7.5	12.9	2. 今よりは良くなるだろう
17.6	14.6	20.3	3. 変わらない
53.3	55.9	51.0	4. 今より悪くなるだろう
17.6	21.1	14.5	5. 今よりずっと悪くなりそう

Q13) 自然環境を今以上に悪化させず、できれば良くするためには、どのような手だてが有効とあなたはお考えになりますか。

TOTAL	男	女		TOTAL	男	女	
34.1	29.1	38.6	1. 工場の排気ガス規制の強化	44.1	44.1	44.0	6. 無公害燃料の発明、普及
48.2	44.1	51.9	2. 自動車の排気ガス規制の強化	28.4	24.9	31.5	7. 市民の日常生活での省エネルギーの実行
8.4	5.6	10.8	3. 工場数の制限	29.3	26.3	32.0	8. 大規模な植樹、植林
19.4	18.8	19.9	4. 自動車総数の制限	28.4	28.6	28.2	9. 産業用・生活用両面での省エネ機器の開発、普及
35.2	34.7	35.7	5. クリーンなエネルギー源による発電	2.2	3.3	1.2	10. その他
				0.9	1.9	-	無回答

Q14) これから一対になった言葉を申し上げます。「放射能」について、あなたはどちらの方の言葉をどの程度の強さでお感じになりますか。感じられるままをお答え下さい。

		1 非常に ×7	2 かなり	3 やや	4 どちらでもない	5 やや	6 かなり	7 非常に ×1	無 回 答	平 均	
a. 暖かい	TOTAL	4.0	5.5	6.6	32.2	10.1	19.8	21.6	0.2	3.15	冷たい
	男	2.8	6.6	6.6	30.5	8.5	24.4	20.7	-	3.09	
	女	5.0	4.6	6.6	33.6	11.6	15.8	22.4	0.4	3.20	
b. 良い	TOTAL	0.7	1.1	2.0	16.5	10.8	23.6	45.2	0.2	2.12	悪い
	男	0.5	1.4	2.8	19.7	12.7	21.6	41.3	-	2.27	
	女	0.8	0.8	1.2	13.7	9.1	25.3	48.5	0.4	1.99	
c. 好きな	TOTAL	0.4	-	0.7	19.4	13.9	24.0	40.7	0.9	2.16	嫌いな
	男	0.5	-	0.9	21.1	15.0	25.4	37.1	-	2.25	
	女	0.4	-	0.4	17.8	12.9	22.8	44.0	1.7	2.08	
d. 役に立つ	TOTAL	4.4	11.9	19.4	29.7	8.8	7.7	17.6	0.4	3.79	役に立たない
	男	6.6	14.6	17.4	27.7	8.0	9.4	16.4	-	3.90	
	女	2.5	9.5	21.2	31.5	9.5	6.2	18.7	0.8	3.69	
e. 明るい	TOTAL	2.9	4.0	7.3	30.6	15.0	17.6	22.0	0.7	3.07	暗い
	男	2.8	6.1	7.5	29.6	12.2	20.2	21.1	0.5	3.12	
	女	2.9	2.1	7.1	31.5	17.4	15.4	22.8	0.8	3.03	
f. 安心な	TOTAL	-	0.7	2.6	9.7	17.6	28.6	40.3	0.4	2.07	不安な
	男	-	0.9	3.8	12.7	15.5	30.0	36.6	0.5	2.19	
	女	-	0.4	1.7	7.1	19.5	27.4	43.6	0.4	1.97	
g. 身近な	TOTAL	3.1	5.5	9.7	23.1	19.2	19.2	19.4	0.9	3.14	縁遠い
	男	3.8	6.1	8.0	26.3	18.3	18.8	17.8	0.9	3.21	
	女	2.5	5.0	11.2	20.3	19.9	19.5	20.7	0.8	3.07	
h. 無害の	TOTAL	-	1.1	0.9	9.3	16.1	30.0	41.9	0.9	2.00	有害な
	男	-	1.4	1.4	10.8	16.9	29.1	39.4	0.9	2.09	
	女	-	0.8	0.4	7.9	15.4	30.7	44.0	0.8	1.92	

Q 14) つづき

	1 非常に ×7	2 かなり	3 やや	4 どちらでもない	5 やや	6 かなり	7 非常に ×1	無 回 答	平 均		
i. 平和な	TOTAL	0.4	1.3	3.3	25.3	14.5	24.4	30.2	0.4	2.53	戦争の
	男	-	1.9	4.7	31.9	14.6	23.0	23.5	0.5	2.77	
	女	0.8	0.8	2.1	19.5	14.5	25.7	36.1	0.4	2.31	
j. 人間的な	TOTAL	1.3	1.3	3.1	24.9	16.3	23.6	29.1	0.4	2.58	非人間的な
	男	0.5	1.9	3.8	27.7	15.5	23.5	26.8	0.5	2.66	
	女	2.1	0.8	2.5	22.4	17.0	23.7	31.1	0.4	2.52	
k. こわい	TOTAL	40.1	22.0	15.0	9.7	5.5	4.8	2.2	0.7	5.59	平気な
	男	31.9	22.1	16.9	12.7	8.0	5.6	2.3	0.5	5.31	
	女	47.3	22.0	13.3	7.1	3.3	4.1	2.1	0.8	5.83	
l. 明解で安心な	TOTAL	0.9	0.7	2.2	20.3	20.9	26.0	28.4	0.7	2.47	気味が悪い
	男	1.4	0.9	0.9	23.9	21.6	26.8	23.5	0.9	2.60	
	女	0.4	0.4	3.3	17.0	20.3	25.3	32.8	0.4	2.35	
m. 生きる	TOTAL	1.3	1.1	2.0	27.3	15.6	22.0	30.0	0.7	2.58	死ぬ
	男	0.5	1.4	2.8	30.0	15.0	24.4	25.4	0.5	2.67	
	女	2.1	0.8	1.2	24.9	16.2	19.9	34.0	0.8	2.50	
n. 医療用の	TOTAL	6.6	15.0	17.2	46.5	7.7	2.9	3.5	0.7	4.43	一般的な
	男	7.0	17.8	16.9	41.3	10.8	2.3	2.8	0.9	4.50	
	女	6.2	12.4	17.4	51.0	5.0	3.3	4.1	0.4	4.37	
o. どこにもある	TOTAL	1.3	2.9	7.5	18.5	15.9	23.1	30.4	0.4	2.63	特別な場所の
	男	0.9	2.8	8.0	22.1	15.5	23.9	26.3	0.5	2.74	
	女	1.7	2.9	7.1	15.4	16.2	22.4	34.0	0.4	2.54	

Q 15) では「放射線」については、あなたはどちらの方の言葉をどの程度の強さでお感じになりますか。感じられるままをお答え下さい。

	1 非常に ×7	2 かなり	3 やや	4 どちらでもない	5 やや	6 かなり	7 非常に ×1	無 回 答	平 均		
a. 暖かい	TOTAL	2.9	3.5	8.8	40.7	12.8	18.1	12.6	0.7	3.37	冷たい
	男	1.9	3.8	8.0	41.3	11.7	21.1	11.7	0.5	3.32	
	女	3.7	3.3	9.5	40.2	13.7	15.4	13.3	0.8	3.43	
b. 良い	TOTAL	1.3	2.2	12.1	32.8	15.2	16.3	19.2	0.9	3.14	悪い
	男	1.4	2.3	11.3	37.6	16.9	16.0	14.1	0.5	3.29	
	女	1.2	2.1	12.9	28.6	13.7	16.6	23.7	1.2	3.02	
c. 好きな	TOTAL	0.2	0.2	1.1	34.8	17.2	22.5	22.9	1.1	2.70	嫌いな
	男	0.5	-	0.5	38.5	18.3	21.6	19.2	1.4	2.81	
	女	-	0.4	1.7	31.5	16.2	23.2	26.1	0.8	2.60	
d. 役に立つ	TOTAL	8.1	25.1	28.9	22.2	4.6	4.8	5.5	0.7	4.73	役に立たない
	男	9.9	24.9	29.1	23.0	5.6	3.3	3.8	0.5	4.85	
	女	6.6	25.3	28.6	21.6	3.7	6.2	7.1	0.8	4.62	
e. 明るい	TOTAL	1.8	5.5	7.0	40.5	13.9	18.1	12.1	1.1	3.36	暗い
	男	1.4	5.6	7.0	39.9	13.1	22.5	9.4	0.9	3.36	
	女	2.1	5.4	7.1	41.1	14.5	14.1	14.5	1.2	3.37	
f. 安心な	TOTAL	0.4	0.9	8.8	22.2	25.6	20.3	20.9	0.9	2.82	不安な
	男	0.5	1.4	8.9	27.7	24.4	20.7	16.0	0.5	2.99	
	女	0.4	0.4	8.7	17.4	26.6	19.9	25.3	1.2	2.67	

Q 15) つづき

		1 非常に ×7	2 かなり	3 やや	4 どちらでもない	5 やや	6 かなり	7 非常に ×1	無 回 答	平 均	
g. 身近な	TOTAL	2.0	6.6	22.2	27.8	15.9	13.0	11.7	0.9	3.64	縁遠い
	男	1.9	7.0	19.7	32.4	12.7	15.0	10.3	0.9	3.65	
	女	2.1	6.2	24.5	23.7	18.7	11.2	12.9	0.8	3.63	
h. 無害の	TOTAL	0.2	0.4	5.3	22.9	27.1	22.0	20.9	1.1	2.71	有害な
	男	0.5	0.9	4.2	23.5	31.0	21.1	18.3	0.5	2.79	
	女	-	-	6.2	22.4	23.7	22.8	23.2	1.7	2.65	
i. 平和な	TOTAL	1.1	3.1	11.5	44.1	11.2	13.4	15.0	0.7	3.37	戦争の
	男	1.4	3.8	11.7	46.5	11.7	13.6	10.8	0.5	3.52	
	女	0.8	2.5	11.2	41.9	10.8	13.3	18.7	0.8	3.25	
j. 人間的な	TOTAL	1.1	2.6	11.7	36.1	18.1	17.8	11.7	0.9	3.31	非人間的な
	男	0.9	1.9	12.2	32.4	20.7	21.6	9.4	0.9	3.26	
	女	1.2	3.3	11.2	39.4	15.8	14.5	13.7	0.8	3.35	
k. こわい	TOTAL	18.7	17.4	23.8	21.4	10.4	4.8	2.6	0.9	4.88	平気な
	男	13.1	17.8	24.4	26.3	8.5	8.0	1.4	0.5	4.71	
	女	23.7	17.0	23.2	17.0	12.0	2.1	3.7	1.2	5.02	
l. 明解で安心な	TOTAL	0.7	1.3	8.8	30.6	24.2	17.8	15.4	1.1	3.06	気味が悪い
	男	-	1.4	8.9	32.9	26.8	16.0	13.1	0.9	3.13	
	女	1.2	1.2	8.7	28.6	22.0	19.5	17.4	1.2	3.00	
m. 生きる	TOTAL	1.8	5.3	12.6	39.2	12.3	15.6	12.1	1.1	3.48	死ぬ
	男	0.9	6.1	11.7	39.4	15.5	13.6	11.7	0.9	3.48	
	女	2.5	4.6	13.3	39.0	9.5	17.4	12.4	1.2	3.47	
n. 医療用の	TOTAL	18.3	24.0	24.7	23.1	4.0	2.0	3.3	0.7	5.10	一般的な
	男	16.0	26.3	25.4	23.5	3.8	2.8	1.9	0.5	5.11	
	女	20.3	22.0	24.1	22.8	4.1	1.2	4.6	0.8	5.10	
o. どこにもある	TOTAL	1.8	6.2	9.0	24.2	15.2	22.0	20.9	0.7	3.04	特別な場所の
	男	1.4	5.2	10.8	30.0	13.1	23.0	16.0	0.5	3.18	
	女	2.1	7.1	7.5	19.1	17.0	21.2	25.3	0.8	2.92	

Q 16) ご承知の通り、日本の電力は現在、水力、火力、原子力によって発電されています。これらで作られた電気を皆様もご使用になっているわけですが、その何%が、水力あるいは火力、原子力によっておこされたものと思われますか。目見当で結構ですので、それぞれの%をあなたの想像されるままにお答え下さい。

		10 %	20 %	30 %	40 %	50 %	60 %	70 %	80 %	90 %	100 %	無 回 答	平 均
a) 水力発電によるもの	TOTAL	18.1	28.0	22.7	11.9	10.4	5.3	2.2	0.4	-	0.2	0.9	28.92
	男	19.2	31.5	23.0	9.4	6.6	7.5	2.3	-	-	-	0.5	27.52
	女	17.0	24.9	22.4	14.1	13.7	3.3	2.1	0.8	-	0.4	1.2	30.17
b) 火力発電によるもの	TOTAL	12.6	20.5	30.8	13.4	12.6	4.8	2.9	1.3	0.2	-	0.9	31.96
	男	14.6	16.4	28.6	15.0	16.0	4.7	3.3	0.9	-	-	0.5	32.62
	女	10.8	24.1	32.8	12.0	9.5	5.0	2.5	1.7	0.4	-	1.2	31.37
c) 原子力発電によるもの	TOTAL	9.5	16.3	18.5	18.3	13.9	10.8	7.5	4.2	-	0.2	0.9	39.12
	男	8.5	13.1	16.9	24.9	14.1	11.3	6.1	4.7	-	-	0.5	39.86
	女	10.4	19.1	19.9	12.4	13.7	10.4	8.7	3.7	-	0.4	1.2	38.46

Q 17) あなたが持っておられる原子力発電についての知識は、世間一般の人に比べて詳しく知っていると思われませんか。それともそうではありませんか。

TOTAL	男	女	
0.2	-	0.4	1. 世間一般の人に比べて非常に詳しく、専門的な知識も持っている
1.8	2.3	1.2	2. 世間一般の人に比べればかなり詳しい
3.5	6.6	0.8	3. 世間一般の人に比べてまあ詳しい方だと思う
29.3	40.8	19.1	4. 世間一般並みだ
26.2	23.5	28.6	5. 世間の人よりもやや知らない方だと思う
24.0	16.9	30.3	6. あまり知らない方だ
15.0	9.9	19.5	7. 殆ど知らない

Q 18) 今後の日本の電力需要をまかなうためには、あなたは原子力発電を積極的に使うべきだと思われますか。それとも使うべきでないと思われますか。次の項目のどれがあなたのお考えに最も近いかお答え下さい。

TOTAL	男	女	
3.3	6.1	0.8	1. 積極的に使うべきだ × 7
4.4	5.2	3.7	2. 使う方がよい
31.7	37.1	27.0	3. 使わざるを得ない
32.2	23.5	39.8	4. どちらとも言えない
18.7	17.8	19.5	5. 使わない方がよい
7.3	7.5	7.1	6. 使うべきではない
2.4	2.8	2.1	7. 絶対使ってはいけない × 1
4.10	4.24	3.97	平均

Q 19) ところで原子力発電について、安心しておられる方と不安を感じておられる方がおられます。あなたはどちらの方でしょうか。次の項目の中で、あなたの原子力発電についてのお感じに最も近いものをお答え下さい。

TOTAL	男	女	
1.1	1.4	0.8	1. すっかり安心し切っていて何の不安もない
7.3	9.9	5.0	2. 大体安心しているが、少々不安を感じないこともない
15.9	17.4	14.5	3. まあ安心してはいるが、若干不安もある
26.2	23.5	28.6	4. 安心半分、不安半分という感じだ
21.8	23.5	20.3	5. 安心しないわけではないが、不安の方がやや大きい
14.3	10.8	17.4	6. かなり不安に思っているが、安心感もないわけではない
13.4	13.6	13.3	7. 非常に不安に思っている

SQ 1) あなたが、そうお感じになるのは何か理由や根拠に基づいてでしょうか。それとも、ただ何となく直感的にそう感じられているのでしょうか。

TOTAL	男	女	
31.9	38.5	26.1	1. 自分なりにそう感じるだけの理由や根拠がある
68.1	61.5	73.9	2. 特にとりたててあげる理由や根拠はないが、しかし何となくそう感じる

Q 20) ご承知の通り、原子力発電については賛否両論があります。これに賛成する方からは原子力発電の有用性・必要性について次のような意見がよく言われています。あなたは、このような意見を聞いたとき、そうだと納得されますか。それとも納得することができませんか。

TOTAL N = 229

男 N = 118

女 N = 111

	1 よく 納得 できる	2 納得 できる	3 まあ 納得 できる	4 どちら でもない	5 やや 納得 できない	6 納得 できない	7 全然 納得 しかねる	無 回 答	平 均
TOTAL	7.4	15.7	46.3	14.8	9.6	3.9	1.7	0.4	4.78
a. 原子力発電は現在の日本で最も主要な電源であり、そのおかげで、我々は今の便利な生活が送れている。……	男 8.5	13.6	45.8	12.7	11.9	5.1	2.5	-	4.69
	女 6.3	18.0	46.8	17.1	7.2	2.7	0.9	0.9	4.87
b. 原子力発電の技術も確立したので、このままエネルギー消費が続くと、現実的に考えれば、将来エネルギー源としてますます重要になる。……	TOTAL 7.4	18.3	34.1	17.5	13.1	6.1	3.5	-	4.57
	男 5.1	17.8	34.7	16.1	14.4	7.6	4.2	-	4.43
	女 9.9	18.9	33.3	18.9	11.7	4.5	2.7	-	4.72
c. 原子力発電は、発電コストが他に比べて安く、価格変動も少ないので、安心して安く電気を利用できる。……	TOTAL 6.6	8.7	33.2	29.3	11.8	5.7	4.4	0.4	4.34
	男 4.2	11.9	33.9	25.4	12.7	7.6	4.2	-	4.30
	女 9.0	5.4	32.4	33.3	10.8	3.6	4.5	0.9	4.39
d. 原子力発電により火力発電を減らすことができるので、大気汚染を少なくし、地球環境保護に貢献できる。…	TOTAL 3.9	7.9	29.3	24.5	19.2	9.6	5.7	-	4.01
	男 1.7	9.3	28.0	26.3	17.8	11.9	5.1	-	3.95
	女 6.3	6.3	30.6	22.5	20.7	7.2	6.3	-	4.08
e. 原子力発電所所在地域には、道路・学校・病院など公共施設の建設、また産業振興のための様々な交付金が交付され、さらに電力会社や関連会社へ就職する機会が増えて、地域振興に役立つことができる。……	TOTAL 0.9	5.7	24.0	33.2	17.5	12.2	6.6	-	3.76
	男 0.8	8.5	19.5	31.4	22.0	11.0	6.8	-	3.75
	女 0.9	2.7	28.8	35.1	12.6	13.5	6.3	-	3.78
f. 今後発展途上国を中心にして世界的なエネルギー需要が増大した場合にも、安心して電力供給するため我が国には原子力発電は欠かせない。……	TOTAL 3.5	10.9	31.9	24.5	15.3	11.4	2.6	-	4.18
	男 1.7	11.9	32.2	24.6	15.3	11.9	2.5	-	4.14
	女 5.4	9.9	31.5	24.3	15.3	10.8	2.7	-	4.23
g. 日本の原子力発電所では、安全管理が充分に行き届いているので安心できる。……	TOTAL 0.9	3.1	19.2	21.8	27.1	16.2	11.8	-	3.33
	男 0.8	2.5	21.2	17.8	28.0	18.6	11.0	-	3.31
	女 0.9	3.6	17.1	26.1	26.1	13.5	12.6	-	3.36

Q 21) 原子力発電には前問で申し上げたような利点があると言われてしています。これらの点を考慮に加えてお考えいただいた場合、今後の日本の電力需要をまかなうためには原子力発電を積極的に使うべきだと思われませんか。それとも使うべきではないと思われませんか。次の項目のどれが今のあなたのお気持ちに最も近いかお答え下さい。

TOTAL	男	女	
1.3	0.8	1.8	1. 積極的に使うべきだ
9.2	12.7	5.4	2. 使う方がよい
35.4	37.3	33.3	3. 使わざるを得ない
30.6	23.7	37.8	4. どちらとも言えない
15.3	17.8	12.6	5. 使わない方がよい
6.1	5.1	7.2	6. 使うべきではない
2.2	2.5	1.8	7. 絶対使っていけない
4.24	4.30	4.17	平均

Q 20) ご承知の通り、原子力発電については賛否両論があります。これに反対する方からは原子力発電は無用で不必要だとして次のような意見がよく言われています。あなたは、このような意見を聞いたとき、そうだと納得されますか。それとも納得することができませんか。

		1 よく納得できる	2 納得できる	3 まあ納得できる	4 どちらでもない	5 やや納得できない	6 納得できない	7 全然納得しかねる	無回答	平均
TOTAL	N = 225									
男	N = 95									
女	N = 130									
a.	原子力発電がなくても、環境破壊をおこさない他の方法で今後も電力は充分供給できる。.....	TOTAL 5.8	8.4	20.4	24.9	25.8	12.0	2.2	0.4	3.98
		男 6.3	9.5	22.1	13.7	29.5	15.8	3.2	-	3.89
		女 5.4	7.7	19.2	33.1	23.1	9.2	1.5	0.8	4.05
b.	将来もっとよい発電方法が開発されると思われるので、原子力発電に将来性があるとは思えない。.....	TOTAL 4.4	11.6	19.1	36.4	14.7	11.6	1.8	0.4	4.13
		男 6.3	12.6	17.9	28.4	12.6	20.0	2.1	-	4.03
		女 3.1	10.8	20.0	42.3	16.2	5.4	1.5	0.8	4.19
c.	原子力発電所のメンテナンスや、廃棄物処理まで考えると、原子力発電のコストは安くない。.....	TOTAL 10.2	27.1	25.8	29.3	4.0	2.2	0.9	0.4	5.00
		男 15.8	26.3	25.3	24.2	4.2	3.2	1.1	-	5.12
		女 6.2	27.7	26.2	33.1	3.8	1.5	0.8	0.8	4.91
d.	原子力発電所からの温排水などが、環境に悪影響を及ぼす恐れがある。.....	TOTAL 13.8	23.6	32.9	20.0	4.9	3.6	0.9	0.4	5.07
		男 15.8	21.1	34.7	17.9	6.3	3.2	1.1	-	5.08
		女 12.3	25.4	31.5	21.5	3.8	3.8	0.8	0.8	5.06
e.	原子力発電所所在地域では、放射能漏れなどの風評で観光や漁業などの産業に悪影響が出たり、原子力発電所のため景観が悪くなり観光客が減るなどして、地域の振興を阻害している。.....	TOTAL 14.7	28.0	29.3	17.8	2.7	6.7	0.4	0.4	5.13
		男 15.8	24.2	29.5	17.9	3.2	9.5	-	-	5.03
		女 13.8	30.8	29.2	17.7	2.3	4.6	0.8	0.8	5.19
f.	日本でいくら安全管理をしても、今後発展途上国で原子力発電所がつかれると、安全性が保証されなくなる。.....	TOTAL 12.9	26.7	24.0	26.7	5.3	3.1	0.9	0.4	5.02
		男 17.9	29.5	24.2	16.8	7.4	3.2	1.1	-	5.20
		女 9.2	24.6	23.8	33.8	3.8	3.1	0.8	0.8	4.89
g.	今の便利な生活を維持するために、原子力発電によって出される高レベル廃棄物を将来にもちこすべきではない。.....	TOTAL 20.0	28.4	23.6	20.0	2.7	4.9	-	0.4	5.29
		男 24.2	28.4	21.1	17.9	1.1	7.4	-	-	5.35
		女 16.9	28.5	25.4	21.5	3.8	3.1	-	0.8	5.24

Q 21) 原子力発電には前問で申し上げたような欠点があると言われてしています。これらの点を考慮に加えてお考えいただいた場合、今後の日本の電力需要をまかなうためには原子力発電を積極的に使うべきだと思われませんか。それとも使うべきではないと思われませんか。次の項目のどれが今のあなたのお気持ちに最も近いかお答え下さい。

TOTAL	男	女	
0.9	2.1	-	1. 積極的に使うべきだ
4.0	7.4	1.5	2. 使う方がよい
29.8	30.5	29.2	3. 使わざるを得ない
30.7	22.1	36.9	4. どちらとも言えない
25.8	29.5	23.1	5. 使わない方がよい
5.8	4.2	6.9	6. 使うべきではない
3.1	4.2	2.3	7. 絶対使っていけない
3.94	4.01	3.88	平均

Q 22) 原子力発電に関しては、いろいろなおそれや不安が言われることがよくあります。そうした意見を集めたところ次のようなものがありました。順にお読みいたしますので、そのような不安やおそれをあなたも感じられますか、その程度もあわせてお答え下さい。

		1 は つ き り る	2 そ ん な い	3 全 然 な い	無 回 答
a. はっきりした理由があるわけではないが、何となくこわい	T	36.8	57.5	5.1	0.7
	男	36.2	55.9	7.5	0.5
	女	37.3	58.9	2.9	0.8
b. 自分たちがよく理解できず、得体が知れない感じのする原子力を使う ... ことがこわい	T	32.8	55.7	10.6	0.9
	男	31.5	55.9	12.7	-
	女	34.0	55.6	8.7	1.7
c. 人体に影響する放射性物質を人間が扱うことがこわい	T	56.8	38.5	4.0	0.7
	男	53.1	41.8	5.2	-
	女	60.2	35.7	2.9	1.2
d. 世界では、チェルノブイリ事故のような大きい事故が過去に	T	73.3	24.9	1.3	0.4
起こったことがあるので、やっぱり不安に思う	男	69.5	29.1	1.4	-
	女	76.8	21.2	1.2	0.8
e. 原子力発電の詳細について説明を聞いたことがないし、	T	43.8	50.2	5.5	0.4
理解しにくいこともあって不安を持たざるを得ない	男	40.4	52.1	7.5	-
	女	46.9	48.5	3.7	0.8
f. 地震国日本では、いくら頑丈に作られていても原子炉が	T	58.6	37.2	3.5	0.7
大地震で壊されて大事故になるかもしれない不安がある	男	54.9	40.4	4.7	-
	女	61.8	34.4	2.5	1.2
g. 原子力発電が最新科学の結晶だとしても、しょせん人の	T	58.4	38.5	2.4	0.7
作ったものであり、故障も起こりうるわけで、絶対安全とは信じにくい	男	57.3	39.9	2.8	-
	女	59.3	37.3	2.1	1.2
h. 放射性廃棄物の処理技術が未完成で、それが貯まって、	T	52.2	43.4	3.5	0.9
いずれ放射能漏れなど起こしそうで不安だ	男	52.1	43.7	4.2	-
	女	52.3	43.2	2.9	1.7
i. 運転員がどれほど優秀でも、人間である以上間違っ	T	51.5	43.6	4.4	0.4
事故を起こすこともありそうで不安だ	男	49.8	43.7	6.6	-
	女	53.1	43.6	2.5	0.8
j. 万が一原子力発電所から放射能が漏れた場合、	T	59.3	37.0	3.1	0.7
その被害が長年にわたって子孫の代まで続くことがこわい	男	61.0	35.2	3.3	0.5
	女	57.7	38.6	2.9	0.8
k. 原子力発電の技術が軍事技術に転用される危険があり、	T	31.5	45.6	22.0	0.9
心配せざるを得ない	男	28.6	43.2	28.2	-
	女	34.0	47.7	16.6	1.7
l. 国や電力会社は原子力発電について、正直にすべてを明らかに	T	32.6	52.0	15.0	0.4
しておらず、何か重大なことを隠しているのではないかと不安になる	男	36.2	47.4	16.4	-
	女	29.5	56.0	13.7	0.8

Q 22) つづき

	1 そ う 感 じ り る	2 そ ん な い	3 全 然 感 じ な い	無 回 答
m. 国や電力会社は、原子力発電のいいことばかりを言っていて、 ウラに何かありそうで、もう一つ安心できない	T 24.0	61.2	14.1	0.7
	男 24.9	56.8	18.3	-
	女 23.2	65.1	10.4	1.2
	T 23.8	57.3	18.3	0.7
n. 原子力発電所からは、いつも微量ながら放射線が出ているようで、 それに不安を感じる	男 19.2	56.3	24.4	-
	女 27.8	58.1	12.9	1.2
	T 41.2	52.0	6.4	0.4
o. 原子力発電所では、こまかい故障などはよくあるようで、 いずれ大事故をおこしかねないと心配だ	男 35.2	57.3	7.5	-
	女 46.5	47.3	5.4	0.8
	T 30.8	56.6	12.1	0.4
p. 原子力は、人間にはしよせん完璧に扱いきれるものではないと思うので、 それを使うことに無理がありそうで不安だ	男 27.7	59.2	13.1	-
	女 33.6	54.4	11.2	0.8
	T 27.8	50.0	21.6	0.7
q. 原子力発電所があるというだけで不安を感じる	男 23.9	48.4	27.7	-
	女 31.1	51.5	16.2	1.2

Q 23) 国や電力会社は、原子力発電について「原子力発電所では安全を保つための余裕のある設計、機械の
 厳重な品質管理、更に常時多くのポイントへの点検と検査を行って、異常や事故の発生を防ぐととも
 に、万一発生したとしてもその拡大を防止するための多重防護施設など万全を期しています。」と言
 っています。あなたはこの見解を聞いて、どのように感じられますか。

TOTAL	男	女	
1.8	1.9	1.7	1. そこまでやっているのなら、まず安全だろうと納得できる
17.8	23.0	13.3	2. 多少の不安は残るが、そこまでやっていれば一応安全なのだろうと思う
31.9	33.3	30.7	3. そこまでやっていれば安全かなと思うと同時に、しかしこれらの防護策をこえてしまっ て事故がおきるかもしれない不安もある
31.3	24.9	36.9	4. 今できる万全の策をとって、安全に配慮しているのは分かるが、しかしそれでもやは り不安感を持ってしまう
17.0	16.9	17.0	5. そのような安全策は当然のことで、それらによって絶対安全と言われても納得できない
0.2	-	0.4	無回答

Q 24) 国や電力会社は「原子力発電所では、大事故の危険性は充分承知しております。そのため運転員にリー
 ダーシップ訓練やヒューマンファクタートレーニング、緊急時の対応訓練等を、日常的に実施して、能
 力向上と気持ちの引き締めを徹底させており、運転員のミス無くして安全を確保するための最大限の
 努力をしています。」とも言っています。あなたはこの取りくみ方を聞いてどのように感じられますか。

TOTAL	男	女	
2.4	2.8	2.1	1. そこまでやっているのなら、まず安全だろうと納得できる
18.3	19.7	17.0	2. 多少の不安は残るが、そこまでやっていれば一応安全なのだろうと思う
28.4	31.0	26.1	3. そこまでやっていれば安全かなと思うと同時に、しかしこれらの防護策をこえてしまっ て事故がおきるかもしれない不安もある
31.3	28.2	34.0	4. 今できる万全の策をとって、安全に配慮しているのは分かるが、しかしそれでもやは り不安感を持ってしまう
19.6	18.3	20.7	5. そのような安全策は当然のことで、それらによって絶対安全と言われても納得できない

- Q 25) 電力の供給を増やせば、経済のゆとりや快適な生活ができますが、公害や環境汚染、自然破壊がそれに伴います。電力の供給を増やさなければ、公害や環境汚染、自然破壊が抑えられますが、経済力が低下し、生活の不便を我慢しなければならなくなります。この点についてあなたのお考えをお聞かせ下さい。この種の問題については、ある意見に100%賛成のこともあれば、8割が賛成だが2割程度反対の気分も残るといったことがあろうかと思われます。次にあげるA、B、2つの意見について、それぞれに何%位の多さで賛成かをお答え下さい。なお、両方の答えが足して100%となるようにお答え下さい。

A. ある程度の公害や環境汚染・自然破壊が伴うことがあっても、経済のゆとりや快適な生活のため、電力供給を増やす。				%
B. 公害や環境汚染・自然破壊を抑えるため、経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなるとしても、電力供給を増やさない。				%

		10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	無回答	平均
A	TOTAL	7.7	7.3	10.4	14.8	30.6	14.5	7.3	5.3	1.1	0.7	0.4	45.84
	男	7.5	7.5	10.3	15.0	29.1	16.4	6.1	5.6	1.4	0.9	-	46.18
	女	7.9	7.1	10.4	14.5	32.0	12.9	8.3	5.0	0.8	0.4	0.8	45.53
B	TOTAL	1.8	5.1	7.0	14.5	30.4	14.3	11.5	6.8	3.7	4.4	0.4	54.16
	男	2.3	5.6	5.2	16.9	28.6	15.0	11.3	7.0	4.2	3.8	-	53.82
	女	1.2	4.6	8.7	12.4	32.0	13.7	11.6	6.6	3.3	5.0	0.8	54.47

- Q 26) 学者や専門家の言うところでは、電力消費は今後も増えると言われています。もしそうだとすれば増加する分だけ発電量も増加させねばならないことになります。もしそうした場合、どのような発電法によってこの増加分をまかなうのがよいと思われますか。あなたのご意見をお答え下さい。

TOTAL	男	女	
15.4	10.3	19.9	1. 水力発電
4.4	4.7	4.1	2. 火力発電
9.9	11.7	8.3	3. 原子力発電
68.1	71.8	64.7	4. その他の太陽、風力、波力、地熱等の自然エネルギーを利用する新しい発電法
2.2	1.4	2.9	無回答

- Q 27) 原子力発電についていろいろお尋ねしましたが、全体としてあなたのお考えに近いものを次の中から1つだけ選んで下さい。

TOTAL	男	女	
5.7	8.5	3.3	1. 安全性には配慮する必要があるが、原子力発電を利用するのがよい
56.6	58.2	55.2	2. 安全性は多少不安だが、現実的に考えれば原子力発電を利用するのもやむを得ない
25.3	23.0	27.4	3. どんなにコストが高く、また環境破壊が伴うにしても、原子力発電より安全な発電に頼る方がよい
12.1	10.3	13.7	4. 不便な生活に甘んじて、原子力発電は利用すべきではない
0.2	-	0.4	無回答

- Q 28) 自然と人間との関係について、次のような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(本当のことに近い)と思うものを、1つだけ選んで下さい。

TOTAL	男	女	
32.8	31.5	34.0	1. 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
60.1	61.5	58.9	2. 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
2.6	3.3	2.1	3. 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
4.0	3.8	4.1	4. その他()
0.4	-	0.8	無回答

SQ 1) では、自然と人間についての次の意見の中であなたのお考えに最も近いものを一つだけあげて下さい。

TOTAL	男	女	
38.3	41.3	35.7	1. 人間が幸せに暮らすためには、自然環境は最も重要であり、これを傷つけるようなことは一切あってはならない
60.8	58.7	62.7	2. 自然環境は大事だが、人間が幸せに暮らしていくためには自然の多少の破壊はやむを得ない
0.9	-	1.7	3. 人間が幸せに暮らしていけることが大事で、その為に自然環境を損なうことがあってもよい

SQ 2) 自然を守って行くべきかどうかについての次の意見の中で、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

TOTAL	男	女	
21.8	21.6	22.0	1. 自然は人類が先祖から受け継いだ財産であり、より豊かにして子孫に引き継がねばならない
73.8	73.7	73.9	2. 先祖から受け継いだ自然を私共の世代がいためてしまったが、せめて今以上悪化させないようにして子孫に引き継がねばならない
4.4	4.7	4.1	3. 自然が多少、少なくなってきても人間の暮らしをより一層幸福にできる文明社会をつくり、それを子孫に引き継ぐことが大事だ

Q 29) 最近、自然現象でも社会現象としてもいろいろなことが起こっていますが、あなたは、あなたの人生の中で次にあげるような事件が起こり、それによる危険にあなた自身がまきこまれる可能性があると思われるか。ないと思われるか。

回答項目の中であなたのお感じに最も近い番号をお答え下さい。

1 絶対ない	2 まずない	3 しるるかも ない	4 ありそう だ	5 必ずある	無 回 答
-----------	-----------	------------------	----------------	-----------	-------------

- a. 大震災
- b. 無差別テロ事件
- c. 原子力発電所の重大事故
- d. 経済恐慌
- e. 電力不足による社会や生活の混乱

	1	2	3	4	5	
TOTAL	0.2	4.6	37.2	37.7	20.3	-
男	-	6.6	37.6	36.6	19.2	-
女	0.4	2.9	36.9	38.6	21.2	-
TOTAL	2.2	17.8	49.3	24.7	5.9	-
男	2.3	20.7	48.8	23.9	4.2	-
女	2.1	15.4	49.8	25.3	7.5	-
TOTAL	0.4	13.7	54.6	24.4	6.6	0.2
男	-	16.0	58.2	21.6	4.2	-
女	0.8	11.6	51.5	27.0	8.7	0.4
TOTAL	0.2	6.2	44.1	36.3	13.0	0.2
男	0.5	4.2	43.7	38.5	12.7	0.5
女	-	7.9	44.4	34.4	13.3	-
TOTAL	1.3	27.1	52.9	14.5	4.2	-
男	0.9	31.9	50.2	13.6	3.3	-
女	1.7	22.8	55.2	15.4	5.0	-

Q 30) こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

TOTAL	男	女	
22.7	26.8	19.1	1. 反対(へる)
61.9	56.8	66.4	2. いちがいにはいえない
15.2	16.0	14.5	3. 賛成(へらない)
-	-	-	4. その他()
0.2	0.5	-	無回答

Q 31) たいいていの人には信頼できると思いますか。それとも、用心にこしたことはないと思いますか。

TOTAL	男	女	
22.2	25.4	19.5	1. 信頼できると思う
74.9	72.8	76.8	2. 用心するにこしたことはないと思う
2.6	1.9	3.3	3. その他 ()
0.2	-	0.4	無回答

Q 32) 2人の人が、次のような意見を述べました。あなたはどちらの意見に賛成ですか。

TOTAL	男	女	
22.0	24.4	19.9	1. 人間として生まれてきたからには、自分が幸せに暮らすことが第一だ
70.5	68.1	72.6	2. 人間として生まれてきたからには、何か小さなことでも、世の中のためになることをしたい
5.9	5.2	6.6	3. その他 ()
1.5	2.3	0.8	無回答

Q 33) たいいていの方は、他人の役に立とうとしていますか。

それとも、自分のことだけに気を配っていると思いますか。

TOTAL	男	女	
38.5	39.4	37.8	1. 他人の役に立とうとしている
51.3	51.6	51.0	2. 自分のことだけに気を配っている
8.8	7.5	10.0	3. その他 ()
1.3	1.4	1.2	無回答

Q 34) あなたは、過去のことと、将来のことと、どちらをよけいに考えますか。

次のうちどれか一つを選んで下さい。

TOTAL	男	女	
68.7	71.4	66.4	1. どちらかと言えば、自分の過去のことより、自分の将来のことの方をよけいに考える
26.4	23.5	29.0	2. 自分の過去のことと、自分の将来のことと、同じくらい考える
4.2	4.7	3.7	3. どちらかと言えば、自分の将来のことより、自分の過去のことの方がよけいに考える
0.4	-	0.8	4. その他 ()
0.2	0.5	-	無回答

Q35) あなたは今の時代の中で、ご自身がどう生きるべきかを中心に考えられますか。それとも自分のこともさることながら、それ以上に子や子孫のためのことを考えられる方ですか。

TOTAL	男	女	
37.0	39.4	34.9	1. 今生きる自分の生き方を中心にして考える方だ
59.3	56.8	61.4	2. 自分のこともさることながら、それ以上に子や孫のためになることを重視して考える方だ
3.5	3.3	3.7	3. その他 ()
0.2	0.5	-	無回答